

小百科事典

增補改訂版



小 百 科 事 典

増補改訂版

1973年2月1日 初版第1刷発行
1982年3月15日 増補改訂版第1刷発行

定価 5,200円

編集兼発行者 下 中 邦 彦

発 行 所 株式会社平凡社

郵便番号 102

東京都千代田区三番町5

振替 東京8-29639番

電話 東京(03)265-0451

本文用紙 大昭和製紙株式会社

本文写真植字 フォト印刷株式会社

本文製版印刷 株式会社 東京印書館

ク ロ ー ス ダイニック株式会社

表紙箔押 斎 藤 商 会

製 本 和田製本工業株式会社

製 函 永井紙器印刷株式会社

装幀=平凡社デザイン室

© 株式会社 平凡社 1973 Printed in Japan

不良本のお取替えは平凡社読者サービス係まで直接お送り下さい(送料小社負担)。

内 部 交 流

S70/27 (日6-2/121)

小百科事典 増補改訂版

B002200

増補改訂〈小百科事典〉刊行にあたって

さきに小社は〈世界大百科事典〉〈国民百科事典〉を刊行し、前者は日本を代表する唯一の本格的な大百科として、後者はみんなに役だつ家ぐるみの中百科として、みなさまのご愛顧を広くうけております。ところで最新〈世界大百科事典〉は全36巻という大部なものであり、また家庭百科ともいえる〈国民百科事典〉にしても全17巻というかさがありますので、小社は、これらの大百科、中百科とならんで、もっと手軽に扱える机上事典ともいふべき小百科刊行の構想を早くからもっておりました。これが〈小百科事典〉全1巻という形で実現したのは、〈世界大百科事典〉の第1版(1955～60年刊行)の編集進行中の1954年のことでした。この〈小百科事典〉も1冊でひきやすく便利だということで大方の好評を博し、版を重ね、〈世界大百科事典〉〈国民百科事典〉とともに、みなさまのご愛用をいただいたわけでございます。

その後、客観情勢の著しい変化に対応するために、〈小百科事典〉の全面的な刷新の研究に取り組み、1973年にようやく新編集の〈小百科事典〉が誕生を見るに至りました。この新〈小百科事典〉は、現在の日常生活において必要欠くべからざる基礎知識から最新の学問成果に至る万般の事象を約57,000項目に集約し、簡潔な説明をすることをモットーとしましたが、その編集の意図を要約してみますと、(1)きわめて特殊な専門的事象より一般的基礎的事象のほうを項目として選びだす、(2)現代科学の最前線の諸成果を積極的に取り入れる、(3)日本の歴史と文化、およびこれに関連する事象に力点をおく、(4)人名・地名・書名その他の固有名詞を重視するなどであります。

この新〈小百科事典〉も、小回りのきく1冊物の机上事典として

好評を博し、たびたび版を重ねてまいりましたが、1980年代を迎えるに及んで、内容の増補・改訂の必要が痛感されるようになりました。改訂にあたっては、これまでの〈小百科事典〉の編集方針の延長線上に沿いながら、(1)現在の時点に立って必要と考えられる新項目約350、ならびに記述内容に補訂の必要なもの約600項目を選び出し、これを一括して五十音順に配列し、巻末に増ページして追補した、(2)既存の項目のうち、生没年、単純なデータの更新等は当該個所で改訂した、(3)付表を全面的に刷新し、新たに世界各国一覽(面積、人口、首都)、世界主要都市その他人口一覽、都道府県および市町村人口一覽(1980年国勢調査)を追加した、等々によって、現在における最新の情報を盛りこむことができたと思えます。なお、本文と巻末追補との関連を示すために、該当項目の見出しに●印を付してありますので、●印のある項目については必ず関連の個所(本文の場合は巻末追補中の同名項目、巻末追補の場合は本文中の同名項目)をご参照下さい。

小社はこの増補改訂〈小百科事典〉が、全国のみなさまのご支持のもとに、机上事典として広く愛用されることを願ってやみません。なお、〈小百科事典〉発刊から本増補改訂版刊行に至るまで、ご執筆の諸先生には厚いご協力をかたじけなくしました。ここに、これら諸先生のご尽力に対し、深く御礼申しあげる次第であります。

1982年3月

平凡社小百科事典編集部

凡 例

見出しについて

1. 表音式かなづかいによる見出しは省略し、漢字・ひらがな・カタカナ・欧字による本見出しを太字(ゴシック)で冒頭にたて、現代かなづかいによる振りがなを次に示した。本見出し中に含まれるひらがなおよびカタカナは、振りがなをつけず——で省略した。

寄生^{せいせい} 大山^{おほやま}

鼻血^{びけつ} 砒素^{びそ}

しがらみ草紙^{しらみくさじ}

オレンジ自由州^{オレンジじゆうしゅう}

2. 動植物名はカタカナを本見出しとし、必要に応じて()内に相当する漢字を入れた。

サクラ(桜) マツ(松)

クジラ(鯨) キツネ(狐)

3. 外国語および一般にカタカナ書きが通用する外来語はカタカナを本見出しとし、長音は「ー」を用いた。ヴ・ヂ・ヅは使用しなかった。また固有名詞を含む複合語などには分離記号「・」(中黒)を入れた。

ジェームズ・ランゲ脱^{ジェームズ・ランゲだつ}

アスワン・ダム

4. 外国語の固有名詞には欧語つづりをつけたが、普通名詞には必要に応じて文中ない文末にその欧語つづりを記入した。

パリ Paris

アポロン Apollōn

5. 人名の生没年は原則として見出しの次に〔 〕で記入し、外国人名については本見出しに続いてフルネームを欧語つづりで示した。

上杉謙信^{かみきみ}〔1530〕

ダン John Donne〔1572〕

6. 人名の生没年については次の記号を用いて年代を表わした。

BC 西暦紀元前

AD 西暦紀元後

ころ …年ころ

? …年らしいが不確実

か …年か…年のどちらか

新旧両暦によるもの

～ …年から…年までの間

7. 中国・朝鮮の地名と現代人名は日本語読みを本見出しとし、原

音のカタカナ表記を併記した。ただし原音のほうが一般に通用する場合は、これを本見出しとした。

天津^{てんしん} ペキン(北京)

魯迅^{ろしん}〔1881〕

8. 日本地名のうち、都道府県市町村の別、温泉などは()で区別した。

岩手^{いわて}(県) 岡山^{おかやま}(市)

宇奈月^{うなづき}(町) 岳^{だけ}(温泉)

9. 外国地理のうち自然地形の項目(山・山脈・川・湖・島・諸島など)と、州・省などは次のように表わした。

エベレスト(山) Everest

オビ(川) Ob'

ソロモン(諸島) Solomon

ミズーリ(州) Missouri

10. 株式会社は(株)で表わした。

11. 数字や欧字の入る見出しは次のように扱った。

2・4-D^{ニシチ} OECD^{エフティ}

α線^{アルファせん} 九九^{クウクウ}

配列について

1. アイウエオ順に従って配列し、清音→濁音→半濁音の順とした。
2. 促音・拗音も音順にかぞえ、清音の次に配列した。
3. 長音の「ー」は音順にかぞえなかったが、長音のないものとするものとは前者を先に配列した。
4. ワ行のヰ・ヱ・ヲはそれぞれア行のイ・エ・オのところに配列したが、本見出しにはヰ・ヱ・ヲの字を用いた。
5. 同音の項目は、数字→欧字→カタカナ→ひらがな→漢字の順と

した。

6. 同音の漢字項目は、第1字めの画数の少ないものから順に、同じ画数のときは第2字めの画数の少ないものから配列した。

7. 同音同字の項目は、地名→人名→一般名詞の順とした。

8. 同音同字の日本地名は、その所属する都道府県の順(ほぼ北から南へ)に従った。

9. 同音同字の外国地名は、本国→植民地の順、自然地名は()内を読んでそのアイウエオ順に配

列した。

10. 同音同字の人名は、架空人名→実在人名の順、実在人名はその生年順に配列した。

11. 同音同字の一般名詞は、原則として()内に部門を記して区別し、次のように配列した。

哲学→心理→宗教→政治→法律
→経済→商業→貿易→社会→歴史→考古→人類→民俗→風俗→家庭→娯楽→スポーツ→美術→音楽→舞踊→演劇→文学→言語→医学→生物→植物→動物→農

業→林業→畜産→水産→単位→
数学→物理→化学→天文→地学

→1.木→建築→機械→電気→交
通→通信→冶金→製造

12. 同音の国王は1世→2世→…
の順に配列した。

文体・用字用語などについて

1. 漢字まじりひらがな口語文とし、
かなづかいはおおむね「現代か
なづかい」に従った。漢字は原
則として当用漢字を用いたが、
固有名詞、歴史的用語、原典か
らの引用などは例外とした。

2. 元素、化合物、動植物、鉱物な
どは学術用語集に従ってカタカ
ナ書きとした。

3. 年代、月日は原則として西暦を
用いたが、必要に応じて日本・
中国その他の暦年も使用した。

特に日本の場合、明治5年の改
暦以前の年月日については陰暦
で示し、これに対応する西暦年
を()に入れた。

4. 度量衡の単位は、原則としてメ
ートル法を用いたが、慣用に従
って尺貫法・ヤードポンド法を
用いた場合もある。

5. 参照符号「→」を必要に応じて用
いて、関連項目および図版の所在
を指示した。参照先に二つ以上

の同音同字項目がある場合は当
該項目の部門を併記し、人名の
場合にはファーストネームの略
号を入れた。たとえば、→L.H.
モルガンはモルガンのうち、
Lewis Henry Morganを参照せ
よの意である。

6. 記号・略記号は次のようにした。

a. 作品名はくゝで囲む。

〈平家物語〉〈リア王〉

b. 法令・引用文その他は「」で
囲む。

c. 天然記念物は(天)、特別天然
記念物は(特天)、史跡は(史)、
特別史跡は(特史)、名勝は
(名)、特別名勝は(特名)と略
記した。

d. 度量衡の単位は次のようにし
た。

[長さ] キロメートル、センチメートル、
ミリメートル、マイクロメートル、
ナノメートル

[面積] 平方メートル、平方センチメートル、平方ミリメートル

平方メートル、平方センチメートル

[体積] 立方メートル、立方センチメートル、立方ミリメートル

[質量] キログラム、グラム、ミリグラム、マイクログラム

[その他] ヘルツ、秒、分、時、日、月、年、海里

e. 次の記号は一般に使用した。

% ‰ °C °K °' (度分秒)

cc mmHg

1970年10月1日以降に合併、編
入のあった市町村の面積、人口
については、合併(編入)市町村
の面積、人口を合算した。

[例] 1972年5月1日、岡山県都
窪郡茶屋町を倉敷市に編入。

この場合、倉敷市の面積、人口
は昭和45年国勢調査による両市
町の数値を合算したもので、旧
町名茶屋には面積、人口を記載
していない(太字は項目名)。

外国語の表記について

1. 欧文の固有名詞については原則
として現地読みを規範としたが、
慣用の読み方に従ったものも少
なくない。

2. デ・ヅ・グは用いなかった。

3. ティ・ディ・チュ・デュ・イエ・
クァ・ゲアなどは、なるべくチ・
ジ・チ・ジュ・エ(イエ)・ク
ァ・ゲアなどのように表わした。

4. 次におもな外国語の表記につい
て国語別に述べる。カタカナ表
記のうち、次にくる母音によっ
て変化するものは「a」の場合
のみを記載した。

アラビア語

d (z, dh) ダ

g (gh, gh) ガ

h (h) ハ

kh (h, kh) ハ

s (sh) シャ

音節が切れることを示す

(例) San'a サヌア

Ma'an マアン

冠詞(例) ar-R アッラ

ud-D ウッダ

イタリア語

c カ

c + (e, i) チェ, チ

cc カ

cc + (e, i) チェ, チ

ch + (e, i) ケ, キ

cia, cio チャ, チョ

g ガ

g + (e, i) ジェ, ジ

gia, gio ジャ, ジョ

gli リ

gn ニャ

ll ラ

rr ラ

s サ(母音の間などではザ)

sc スカ

sc + (e, i) シェ, シ

scia	シャ
z	主として北部はザ、中・南部はツァ

英語

borough, burgh	バラ
bury	ベリ
er(末音)	アー
ley	リー
Mac, Mc	マカ, マッカ
ray, rey	レー
son	ソン
whea, whi	ホイ
ye	イエ, エ

[ei]と発音する語はエー

[ou]と発音する語はオー

オランダ語

ei	アイ
er(末音)	エル
eu	ウー
ey	アイ
ij	アイ
g	ハ
je	イエ
oe	ウー
sch(頭音)	スハ
sch(末音)	ス
v	ファ
wi	ウィ

ギリシア語

古典ギリシア語についてはつづり字をそのままローマ字に転写した。

α→a	β→b	γ→g
δ→d	ε→e	ζ→z
η→ē	θ→th	ι→i
κ→k	λ→l	μ→m
ν→n	ξ→x	ο→o
π→p	ρ→r	σ→s
τ→t	υ→u	φ→ph
χ→ch	ψ→ps	ω→ō

長くなる母音には長音符号をつけ、複母音ouはouとした。有気音はhで示した。

ch	カ
ei	エイ
ou	ウ

ph	ファ
th	タ
x	クサ

なお、現代のギリシア地名については、現代の発音を英語式に転写した。

スペイン語

e+(e, i)	セ, シ
g+(e, i)	ヘ, ヒ
güe, güi	グエ, グイ
j	ハ
ll	リャ(中南米ではヤ)
ñ	ニャ
que, qui	ケ, キ
x	クサ, ヒャ, サ
z	サ

ドイツ語

ä	エ, エー
äu	オイ
bach	バハ(例外J.S. バッハ)
cher	ハー, ヒャー
d(末音)	ト
berg, burg	ベルク, ブルク
er(語尾)	アー
eu	オイ
ig(末音)	イヒ
ng	ング
ö, oe	エ, エー
pf	プファ
ü	ユ, ユー
v	フ, ブ
w	ワ, ウィ, ウ, ウェ, ウォ
wu, wü	ブ, ビュ

フランス語

aïl, aille	アイユ
aim, ain	アン
aire	エール
é	エ
ê	エー
eaux	オー
eille	エイユ
em, en	アン
enne	エンヌ
gn	ニャ
im, in	アン

oi, ois, oy	オア
onne	オンヌ
u	ユ
ville	ビル

ポルトガル語

am, an	アン
ão	アン
e+(e, i)	セ, シ
s	サ
ch	シャ
gue, gui	ゲ, ギ
lh	リャ
nh	ニャ
õe	オンイ
s	サ, ザ, シャ
x	シャ

ラテン語

c	カ
ph	ファ
qua, qui	クア, クイ
th	タ
v	ウァ, ウィ, ウ, ウェ, ウォ
y	イ

ロシア語

ロシア文字については次のようにローマ字に転写した。

А а→a	Б б→b	В в→v
Г г→g	Д д→d	Е е→e
Ё ё→ë	Ж ж→zh	З з→z
И и→i	Й й→j	К к→k
Л л→l	М м→m	Н н→n
О о→o	П п→p	Р р→r
С с→s	Т т→t	У у→u
Ф ф→f	Х х→kh	Ц ц→ts
Ч ч→ch	Ш ш→sh	Щ щ→shch
Ъ ъ→	Ы ы→y	Ь ь→
Э э→e	Ю ю→yu	Я я→ya
ë	ヨ, ヨー	
kh	ハ	
n*(末音)	ニ	
sh	シャ	
shch	シチャ	
v	バ, 末音はフ	
zh	ジャ	
	イ	

ア

アア溶岩 粘性の小さい玄武岩質溶岩が噴出して固るとき、表面に鉾津岩やコークスを敷きつめたような模様ができる場合がある。これを鉾津状溶岩またはアア溶岩という。ハワイでこれをa-a lavaと呼ぶの由来。大島三原山の溶岩はその例。

アイ(藍) タデアイとも。タデ科の一年草。染料植物として非常に古く中国から渡来し、栽培されている。外形はイヌタデに似て、高さ50〜70cmになる。早春に苗床に種子をまき、春植え付け、夏に刈り取り、葉を刻んで乾燥させ葉藍とする。これを藍み重てて発酵させ、臼でつき固めて藍玉を作り、木灰、石灰およびふすまを混ぜて水をを加え加し建浴びとする。これに木綿、麻などを浸し、空中にさらすと紺色に染まる。江戸時代の阿波の藍玉の生産は有名。現在では合成インジゴが用いられる。→紺屋

アイアイ ユビザルとも。霊長目キツネザル科。体長40cm、尾60cm。マダガスカル島に分布。単独または1対で竹林にすみ、大木のまたに枯葉で巣を作る。夜行性。昆虫、鳥卵、果実を食べ、特にサトウキビの汁を好む。門歯はネズミ類に似る。

アイアス Aias ギリシア神話。テラモンの子、サラミスの王。筋骨たくましく、力が高く、トロヤ戦争では寡黙剛直、ゆるぎなき勇気でアレキスに次ぐ英雄と称された。アイアスの死を扱った同名の作品がソフォクレスにある。なおオイレウスのにもアイアスという子があり、こちらは小がらだった。ローマではアヤックス Ajax。

アイアタ (IATA) → 国際航空輸送協会

IR → 情報検索

IRBM → 中距離弾道ミサイル

IE → インダストリアルエンジニアリング

IAA International Advertising Associationの略。1938年ニューヨークで創立された輸出広告協会が前身。国際的な広告水準の向上、情報交換などを目的とし、会員数2,250人(1968)。1961年に日本支部設立。

IASY → 太陽活動期国際観測年の略称。

ISF → 国際スポーツ連盟

ISO → 国際標準化機構(ISO)は1958年に制定した三角ねじ山形。ねじ山の角度は60°。ISOメートルねじとISOインチねじの2系列がある。ISOねじは、現在、世界の主要国の規格に導入され、JIS(日本工業規格)も65年から導入開始、68年、JISのねじはほとんど完全にISOねじと一致することになった。

ISP → 亜鉛と鉛を同時に得られる新製錬法。焼結した亜鉛・鉛混合

精鉱をコークスと共に炉に装入、鉛鉛は炉底から取り出し、炉の上部に揮発した亜鉛ガスは溶融鉛のシャワー中を通過し急冷、鉛に溶解吸収され、冷却後亜鉛が析出分離される。

IFF → 国際スポーツ連盟

IFF → 敵味方識別装置

IMF International Monetary Fundの略。国際通貨基金。国連専門機関。→ブレトン・ウッズ協定に基づき1946年設立。第二次大戦後の世界通貨制度安定のため、自由貿易と金・ドル本位制に基づく多角的決済方式を確立し、国際的為替安定を図るのが目的。最高機関は総務会(各国代表)で出資割当額に応じて表決権をもつ。加盟国110。出資総額212億ドル(1968.9)。米国が約25%を出資し、ソ連圏はほとんど非加盟。日本は1952年加盟。→国際流動性

IMF-JC International Metalworkers' Federation-Japan Councilの略。国際金属労連日本協議会。IMFは国際自由労働の影響下にある国際組織。JCは1964年結成。中立労連系の電機労連、同盟系の自動車労連、総評系の鉄鋼労連などが加盟。総評に批判的経済的競争に限定し、労使協調の傾向が強い。加盟組合17、約99万人(1968.6)。

IMF特別引出権 従来のIMF資金とは別勘定に1967年設けられた特別引出権(略称SDR)で、計画的に創出され、IMF出資割当額に応じて各国に配分されて対外準備に加えられる。国際収支赤字国はSDRと交換に外債をIMFから獲得できる。金価値保証はあるが、金と交換されない。新準備資産または第三の国際通貨と呼ばれる。→国際流動性

IMF平価 IMF加盟国の通貨の国際交換比率で、金(金平価)または米ドル(ドル平価)で表示される。米ドルは1944年7月1日現在の量目および純分(1ドルは金65.5トロン)が基準であったが1971年12月のト・国蔵相会議でドルの切下げが決定、1ドルは $\frac{1}{37}$ トロンが基準となる。日本円は1ドル=308円であるから、1円につき純金2.65751g、0.324675セント。→アジャスタブル・ペッグ・レート

ILS → 計器着陸方式

ILO International Labor Organizationの略。国際労働機関。1919年ベルサイユ条約に基づき、国際連盟の一機関として設置、第二次大戦後は国際連合の専門機関となる。基本的な精神と目的はILO憲章、→フィラデルフィア宣言に明ら。各加盟国は総会2、資本金1、労働者1の代表を総会に出し、多くの条約・勧告を決議している。常設事務局はジュネーブ。加盟国142(1980)。日本は1919年加盟、38年脱退、51年再加盟。1969年ノーベル平和賞。

ILO憲章 ILOの基本精神、組織、手続その他一般規定、原則を明らかにするためのもの。前文を除き40章。→フィラデルフィア宣言が付属している。前文で世界の恒久平和は社会正義を基礎とすること、労働条件の改善、失業防止、災害の防止と補償、幼少年と婦人の保護、老年および廃疾者への給付、結社の自由の承認、職業訓練の必要性などをあげている。

ILO条約 (1号) 1919年ILOで採択。工業的企業での1日8時間、

週48時間労働制を定めたもの。30年商業・事務労働者にも拡大され、35年週40時間労働制の47号条約が成立したが批准国がほとんどなかったため、62年漸進的・段階的進行に関する116号勧告を決定。

ILO条約 (26号) 1928年ILOで採択。→最低賃金制度設立に関する条約。この制度を適用すべき産業部門の決定およびその運用について労使代表の協議を定める。→最低賃金法

ILO条約 (87号) 1948年ILOで採択。結社の自由と団結権保護に関する条約。労使双方ともに団体の結成、加入、規約制定その他諸活動について自主権をもつ、公権力の介入排除を定める。警察と軍隊を除くすべての公務員、労働者に適用される。日本では公務員法、公労法などがこれに違反するとして、57年以降激しい批准促進運動が続き、65年批准。

ILO条約 (98号) 1949年ILOで採択。ILO条約と団体交渉権の原則適用に関する条約。87号条約を実効あるものとするため、組合運動を理由とする差別待遇、組合活動回避の契約締結、組合への支配介入などの不当労働行為の禁止を定める。日本は53年批准。

ILO条約 (100号) 1951年ILOで採択。男女同一労働、同一賃金の原則を定めた条約。日本では労働基準法第4条にこの種の規定があるが、その実施状況については問題になっている。

ILO条約 (102号) 1952年ILOで採択。通常、「社会保障の最低基準に関する条約」という。医療、疾病、失業、老齢、業務災害、家族、母性、廃疾、遺族の各部門の給付について国際的な最低基準を定めている。日本は69年現在未批准。

ILO条約 (105号) 1957年ILOで採択。思想・表現の自由の抑圧、労働規律の維持、スト参加の制裁、人種的・社会的差別等の手段としての強制労働(懲役・禁錮を含む)の廃止を定める。日本でも特に公務員の労働組合から批准の要請が強い。

秋穂 (町) 山口県吉敷郡、周防灘に臨む町。東の大海、西の秋穂湾にはさまれた半島部を占め、海岸には平拓地が広い。秋穂、大海はともに小形引網漁業が盛ん。ノリ養殖も行なう。花コウ岩、工業用の砂も産し、舟運を利用し搬出する。23.48平方km。9,121人(1970)。

相生 (市) 兵庫県南西部の市。1942年市制。相生湾に臨む中心市街は、1908年播磨造船所の創設とともに発展、造船関連産業、陸上部門の内燃機関など工業化が進み、現在は造船(石川島播磨重工業)を中心に播磨臨海工業地帯の一部をなす。海岸部は瀬戸内海国立公園に属し、パレード祭も有名。山陽本線・新幹線が通じ、赤穂線が分岐する。90.40平方km。40,657人(1970)。

相生 (町) 徳島県中部那賀郡の町。那賀川中流域の山地を占め、主要市街地の延野が国道195号線に沿う。那賀川総合開発に基づく開発が進み、日野谷発電所、川口発電所が完成。木材、茶などを産する。100.45平方km。4,586人(1970)。

IOC → 国際オリンピック委員会

アイオリス人 エオリア人とも。古代ギリシア民族の一派。→ドリス

人侵入以前にギリシアに來住、アイオリス方言を使用。前1000年ころ、ボイオチア、テッサリアからレスボス島、小アジア西岸北部のアイオリス Aiolis 地方に進出。

アイオロス Aiolos ギリシア神話。風神の王。浮島アイオリアに住み、その6人の息子と6人の娘も互いに結婚して父とともに住んでいた。さまざまな風を袋につめ、時季にかなった風を出す。

アイオワ(州) Iowa 米国中西部の豊かな農業州。→プレーリーに位置し、山地がなく、小起伏のある台地からなる。トウモロコシの生産地で、エンバク、牧草の生産も多し、畜産は全米第1。黒人は少ない。1838年産州、46年州に昇格。主都デモイン。145,800平方km。2,825,041人(1970)。

アイオン台風 1948年9月16日、関東南部に上陸し、関東北部山岳地帯に200〜300mmの大雨を降らせた台風。北上川の支流舞止川の堤防決壊により大災害が発生した。

アイガー(山) Eiger スイス中南部、ベルン州・アルプスの山。標高3,970m。1858年初登頂。1921年横有恒が東山稜を初登頂。北壁は高さ1,800mの岩壁で、アルプスの最も困難な登山ルートの一つ。65年高山光政が日本人として初めてこのルートに成功。

アイカオ (ICA) → 国際民間航空機関

合方紙 → 合の手紙

藍紙 青花紙、緑紙とも。ツクケの花の絞り汁を→藍具紙にしみ込ませたもの。この紙から抽出した青色の液で書いた模様は、水中で容易に除かれ布地に跡を残さないで、古くから友禅染の下絵をかくのに使用。主産地は愛媛県。

アイガモ 一名ナキアヒル。ガンカモ科の鳥で、野生のマガモと→アヒル(マガモを家畜化したもの)との雑種。ふつう料理店でアイガモというのはアヒルのことである。

合川郡 (町) 秋田県北部、北秋田郡の町。米代川支流の阿仁川と小阿仁川の合流点付近に主集落がある。農業が主で、養鶏、養豚が盛ん。北東部の大野台は広い洪積台地で、酪農、野菜栽培が行なわれる。-112.52平方km。9,946人(1970)。

相川 (町) 新潟県佐渡島西部、佐渡郡の町。大佐渡半島を占め、大半が山地。主集落の相川は、幕府直轄の→佐渡金山で栄えたかつての鉱山町で、奉行所跡がある。農林業が主で、海藻類も採取、製材や古くからの無名炭焼の生産も行なう。→尖閣諸島、→海府海岸など佐渡弥彦国定公園に属する。192.55平方km。14,654人(1970)。

愛川 (町) 神奈川県北部、丹沢山地麓の愛甲郡の町。養蚕地帯で、中津川中流部にある中心市街は古くから絹然産地で知られていたが、近年はナイロンなどを多産。1961年中津工業団地ができた。木材も産する。上流に紅葉の名所中津渓谷がある。34.13平方km。18,442人(1970)。

愛媛 中国、黒竜江省北東部の都市。旧名は黒河、愛輝。黒竜江の西岸に臨み、ソ連境ブラゴベシエンスクと対し、中ソ交通・貿易の要地。付近に金、木材を産する。人口約4万。アイギストス Aigisthos ギリシ

ア神話。チェウステスとその戦との子。捨てられてヤギに育てられる。長じてアルゴスに帰り、ウリタイムネストラと通じてアガメムノンを謀殺したが、のちアオレステスに殺された。

合気道 古武道である柔術の一流。大東流柔術に諸流を入れ、大正末年極盛期によって合気道として公開されたことに始まる。合理的な自然の動きを主とした入身技のほか、関節技などが主体。柔術のうち競技化されやすい技法が他道へ受け継がれたのに対し柔術の他道の技法を強調したものに、**アイギナ** **Aigina** エギナとも。ギリシアのサロニク湾内の同名島にあったポリス。前1000年ころペルシア人が侵入して建設、海上交易に活躍。前7世紀半ばころギリシア最初の貨幣を鋳造。前6世紀初めアテナイと対抗、のち圧迫されて勢力ふるわず。

アイキャッチャー 宣伝物の効果をあげるために、見る者の注意をひきつけるポイントとなる絵、写真、図形、文字など。インキビを壁に投げつけてできる破裂したような図形などは、古くから使用されているアイキャッチャーの代表例。

IQ1 → 知能指数
IQSY 国際地球観測年。国際静穏太陽観測年。太陽黒点の極小期に、世界各国が協力して、地球物理学上の総合的な観測を行う行事。→ 国際地球観測年の中間年にあたり、最近では1984～65年。

間狂言 → 狂言方が、能の中の登場人物の一員として出る役。間とも。前場・後場のつなぎにも出るもの(語間筋)と、戯曲の進行に直接関係するもの(会釈間筋)があり、独立した寸劇が挿入されるもの(替間筋)とがある。里人、従者、寺男、船頭、官人、末社の神などの役が多い。→ 狂言

愛媛県 → 橋孝三郎が1931年茨城県常盤村(現、水戸市)に設けた農本主義に基づく青年教育のための私塾。農村政策、政党の腐敗はこの塾を右翼運動に接近させ、五・一五事件には農民決死隊として参加。橋は無期懲役。数は解散。

アイクシュテット **Egon Freiherr von Eickstedt** ドイツの人類学者。1929年ブレスラウ大学教授、46年マインツ大学教授、48年ドイツ人類学会初代会長。研究対象は人類学、古代人類学、民族学、心理学等きわめて広い。主著『人類の歴史』(1962)。

合口 鋸の鋭い短刀。鞘の口と柄の縁とが合うように作る。とじの字を当てることが多いが、これは本来は中国の頭がさばりに似た短剣である。→ 短刀は公式に帯びるので飾りがあるが、合口には飾りがない。九寸五分、どすともいう。

愛理条約 1858年ロシアと清国の間に愛理で結ばれた条約。ロシアはネルチンスク条約の制約を無視し、英国と対抗するため、黒竜江を占領しようとし、ムラビヨフをして、太平天国の乱で苦しんでいる清国の全権突出員を相手に結んだ。黒竜江左岸をロシア領とし、ウスリー江以東を共有領土とするなどロシアは領土を拡張した。

アイゲウス **Aigeus** ギリシア神話。パンディオンの子。アテナイを征服し王となる。トロイゼンの王女にテセウスを産ませた。のちテセウスがクレ

タ島で殺されたと早合点し、絶望のあまり海に身を投げた。以後その海はネイガイオン(エーゲ)海と呼ばれる。

アイゲン **Manfred Eigen** 物理化学者。ゲッティンゲン大学で学ぶ。マックス・プランク研究所教授。溶液内におけるイオン反応の動力学的研究を行なう。短時間パルスによる平衡状態擾乱法でも知られる超高速化学反応の研究で、→ G. ボーター、→ R. ノリッシュとともに1967年ノーベル化学賞。

アイゴ アイゴ科の魚。地方名はバリ、アイなど。全長30センチ。本州中部・インド洋に分布し、磯魚で植物性の餌を好み、腹鰭の外側と内側に1本ずつ、しり鰭に7本のとげがあるのが特徴。背鰭のとげも鋭く、これらに刺されるとはなはだ痛い。磯臭いが一般に賞味される。熱帯には近似種が多い。

愛国公党 (1) 征韓論に敗れた板垣退助、後藤義二郎が、1874年1月東京で結成した日本最初の政党。→ 民権院設立建白を提出して自由民権運動の口火を切るが、自然消滅。(2) → 大同結団運動分裂後の、1889年12月に板垣退助が組織した政党。90年9月には→ 立憲自由党へ発展。

愛国社 → 立志社が中心となって1875年に結成した、日本で最初の全国的な政治結社。中心人物板垣退助の参議復職で自然消滅したが、地租改正反対闘争が各地で盛り上がるや、78年に再興大会がもたれた。79年の第2回大会には18県21市が結集。80年の第4回大会で→ 国会期成同盟と改称された。

愛国婦人会 近代日本の軍事援護事業を目的とした婦人団体。北清事変従軍の奥村五百子(傷病兵・遺族の援護を目的に1901年設立。上流婦人を中心として軍国主義化の波に乗って発展。思想教育・社会事業にまで手をのばし、42年大政翼賛会下部の→ 日本婦人会に統合され、戦後解体。

アイノスコープ → テロキレンにより発明された初期のテレビ撮像管。モザイク面と呼ばれる光電面に焦点を結んだ光学像は多数の電荷群に変換され、高速電子ビームで順次走査することにより電荷が放電され信号電流となる。全電子式テレビ方式はこれにより可能となった。

アイサ ガンカモ科の鳥で日本には3種。カワアイサは最も大きく翼長26センチ、ウミアイサは24センチ、ミコアイサは19センチ。冬鳥として渡来し、潜水して魚をとる。カワアイサとミコアイサは湖や川に、ウミアイサは海にすむ。北海道では少数繁殖する。

相沢事件 1935年8月陸軍中佐相沢三郎が陸軍省軍務局長少将永田鉄山を斬殺した事件。→ 皇道派の教育総監真崎三郎の寵愛に憤激した相沢は、→ 統制派の巨頭永田を白昼斬殺した。軍事裁判で統制派を攻撃、両派の対立は激化した。二・二六事件後の35年7月死刑。

会沢正志斎 江戸末期の→ 水戸学を代表する学者。名は安仁、字は伯民。正志斎は号。藤田鳴鶴に学び、その子東湖と徳川斉昭の藩主擁護を策した。のち藩政に参画、弘道館教授となる。主著『新論』は、尊王・大義名分・富国強兵などを強調し、当時の尊皇志士に大きな影響を与えた。

IC7 → 集積回路

ICI 略。Imperial Chemical Industries Ltd. の略。インペリアル・ケミカル会社。1926年英国の化学4社が合同して設立。石油化学製品はじめ肥料・火薬・医薬・染料や非鉄金属を製造。デュボアに次ぎ世界第2位の化学企業。特にテリレン、ポリエチレンの開発で有名。海外約40か国に100以上の系列会社をもつ。

アイジツ **Dipa Nusantara Aidit** インドネシア共産党指導者。民族運動を通じて共産党に接近。1943年入党。党中央委員・政治局員・書記長を歴任。中央委員会議長としてスカルノ支持の民族統一戦線を推進、勢力を伸張したが、65年→ 9月30日事件後陸軍に捕われ、射殺されたという。

ICBM → 大陸間弾道ミサイル
アイシャドー 目に陰影をつけ美しくみせるための化粧料。まぶたや目じりなどに塗る。無害の色素を油脂、蠟、香料などと練り合わせたもので、固形、クリーム、棒状がある。

相性 陰陽五行説に基づき、人との性格や、男女の性が合うとするもの。男女を生涯によって木・火・土・金・水の5に分け、木・木・火・火・火・土・土・金・金・水・水・土・土・土・金は相性で吉、水・火・火・金・金・木・木・土・土・土は相性で凶とする。日本では室町時代から民間に流行した。

IGY → 国際地球観測年
愛新覚羅 清の「あいしんかくら」とも。清室の姓。漢字は滿洲語の音表記。アイシンaisinは金、ギョロgiroは骨族、名門を意味する姓。清の建国者ヌルハチが金朝になぞらえて正室の姓とし、以後清の滅亡まで使用された。

アイシングラス 魚類。おもにカレイ類のうきぶくろを水洗、乾燥したもの。成分は→ コラーゲンで、水と煮沸すれば良質のゼラチンを得る。→ 魚翅類

アイスキネス **Aischines** 古代ギリシアの雄弁家。親マケドニア政策を鼓吹し、同時代の雄弁家デモステネスと激しく対立して大敗する。

アイスキュロス **Aischylos** 古代ギリシア三大悲劇詩人の最初の人。アテナイの興隆期を身をもって生き、ペルシア戦争では Marathon、サラミスの激戦に参加した。90以上の作品中現存するのは(ペルシア人)→ 縛られたプロメテウス)→ クレステイア三部作)など7編のみ。従来は一人の役者と合唱隊で組織されていた悲劇に、第二の役者を加えたのも彼であり、雄大な構想と雄大な言語は他の追随を許さない。思想的には、人倫の基礎としての正義と、その守護者としての神の観念を追求した。

アイスクリーム 牛乳(生クリーム、練乳、粉乳なども)、卵卵、砂糖を主材料とし、よく攪拌して空気を含ませ凍らせたもの。食品衛生法では乳脂肪分8%以上を含むものとしており、氷菓子と区別される。1550年ころイタリアで考案。一般に風味料、固形料(ゼラチン、アルギン酸など)などを加えて生産される。→ ソフトクリーム

アイスクリームフリーザー アイスクリーム製造用冷凍器をいう。家庭用のものは寒剤(塩と氷)中でクリーム材料を入れた容器を回転させる仕組みであるが、最近では電気冷蔵庫の冷凍室中で、材料を小型モーターで攪拌する仕組みのものも使用されている。

アイスパイン 代表的なドイツ料理の一つ。豚の足の背付肉を塩漬したもので、ふつふつ煮ながらゆでてマスタードをつけて食べる。ジャガイモやザウアークラウトとともに煮込むことも多い。

アイスパック 携帯用の氷冷蔵器をいい、アイソボックスとも呼ばれる。一般に直方体形で、外側と内側の間にフォームプラスチック、ガラス繊維などの断熱材が詰められている。冷材には氷、ドライアイスなどが使用され、旅、釣などに使用される。

アイスホッケー スケートをはいた6人の選手(フォワード3、ディフェンズ2、ゴールキーパー1)が2チーム相手で行なう氷上競技。先の曲がった木製のスティックでバック(ゴム製の円板)を相手のゴールに入れて得点を争う。競技は10分ずつの休養をはさんで20分ずつ3回行なう。アイスホッケーは北欧で生まれカナダで国技として発達した。

藍住 徳島県北東部、吉野川下流の板野郡の町。藩政時代藍玉作りの中心であった。肥えた沖積土壌を利用し、水田耕作のほか、野菜・花菜栽培が盛んで、敵陣などへ出荷する。中世に細川氏の阿波支配の中心であった勝瑞城の跡がある。16.80平方キロ。10,244人(1970)。

アイスランド **Iceland** 欧州北西方、北大西洋上の島で、独立共和国。103,000平方キロ、200,000人(1970)。首都レイキヤヴィク。フィヨルド海岸に開かれ、平均標高600メートルの台地よりなり、ヘクラ山など活火山が多く、温泉が豊富。全島の1割以上が氷河でおおわれる。北緯63°30'～66°30'の高緯度にあるが、メキシコ湾流の影響で比較的温暖な海洋性気候。住民はルウェー人とアイランド人の混血で、キリスト教徒。元首は任期4年の大統領。議会は二院制。北大西洋条約機構加盟国。牧羊を主とし、漁業が盛んで、輸出の90%以上が水産物。874年ルウェー人が移住。930年アルティンク(議会)開設。1262年にルウェー領。1380年にデンマーク領。19世紀後半自治が認められ、1918年デンマーク王を臣とした王国。4年5月国民投票で独立共和国となった。

アイスランド語 印欧語族の北ゲルマン語に属す。12世紀ころから→ エッダ、→ サガ、→ スカッド語等の豊富な文学をもつ。1500年ころを境に古代と近代に分ける。地理的に孤立しているの他からの影響が少なく、古形を保ち、ゴート語とともにゲルマン語研究に不可欠の資料である。

アイスランド式噴火 → 裂け目噴火
アイスランドボビー → ヒナゲシ

アイゼナハ 1869年探採。第一インターナショナルの基本テーゼにのっとり、階級闘争の原則、労働運動の国際性などを強調し、75年の→ ゴータ綱領成立まで指導力を有した。

アイゼナハ派 ドイツ初期社会主義の一派。1869年バーベル、→ W. リーアクネヒトらの指導のもとにアイゼナハ(現在東独西部の町)で創設されたドイツ社会民主労働党を→ サール派に對してこう呼ぶ。この派はマルクス、エンゲルスの影響が強いといえ、75年ラサール派と合同し、ドイツ社会主義

労働党を結成。

アイセル(湖) Ijssel オランダ北西部にあり、もとはゾイデル海と呼ばれた北海の湾入であったが、1932年締切堤防が完成して湖となった。30年以來5区画2,260平方*の干拓地造成が行なわれ、80年までに2,190平方*が完成、現在は干拓中。湖水面積は1,250平方*。→ホルダー

アイゼン ドイツ語のシュタイクアイゼン Steigleisen の略。山麓の底に合わせて作られた鋼鉄製のスパイク。堅い雪や氷の上を歩くときピッケルと併用し、滑落を防ぐ。8本爪、10本爪、12本爪のほか、夏山用のX型、4本爪の軽アイゼンもある。

愛管花びき →大木敦彦

アイゼンハワー Dwight David Eisenhower(88) 米国の軍人、政治家。第34代大統領(1953～61)。1942年以降欧州派遣米軍最高司令官、欧州連合軍最高司令官等を歴任、45年参謀総長、48年一時退任してコロムビア大学総長、50～52年NATO軍最高司令官、52年共和党から大統領に当選。回顧録(欧州派遣軍)がある。

アイゼンハワー・ドクトリン 1957年1月アイゼンハワー大統領が議会にあてた特別教書の中心で提議した中東政策の反共的原則。中東諸国への軍事的・経済的援助供与および要請のあった際の軍隊出動権限を大統領に付与することを目的とする。

アイゼンヒュッテンシュタット Eissenhüttenstadt 東独、フランクフルト・アン・デル・オーデル南東方の工業都市。オーデル・シュペレ運河とオーデル川の接合部に製鉄コンビナートを中心として1951年に新設された。ドイツ最初の社会主義的モデル都市。東独における鉄鉄の60%以上を生産する。39,300人(1967)。

愛染明王菩薩 仏と人との間にあり愛によって両者を結ぶと考えられる明王。大日如来または金剛愛菩薩を本地とし、その仮現仏と考えられる。その愛はすべての恵を降伏するもの。で、三面六臂の忿怒の形をし武器を持つ。人に恩恵・敬愛・福徳を与えると信ぜられ、愛染法が行なわれた。

アイソザイム 酵素の同一、同じ作用をもっているタンパク質としての構造や組成の異なるもの。アイソザイムはそれを生産する組織によって異なることがあり、この場合、酵素タンパク質を構成する単位の数と違いくる。

アイソスタシー 地殻均衡という。→地殻はそれより密度の大きい「液体」の上に浮かび、地殻上の大きな凹凸は浮力とさきえられ液状の地殻状態にあるという考え。液体とは実際にはマントル上層100～200*の比較的肉らかい可塑的物質のこと。J.H. プラットの説(1858)では凸部の下の地殻物質は密度小、凹部の下では密度大で、地下120*の面で圧力が均衡する。このG.B. エアリーの説(1855)では地殻物質の密度の大小は考えず、地上の凹凸に対応して地殻底部に反対向きの凹凸があり、その浮力と均衡が保たれるとする。今日は後者が有力。アイソスタシーは→重力異常、鉛直線偏差などの観測で表付けられ、地殻の90%の地域で成り立つとされているが、これは約100*四方規模の地域の平均高度に対して成り

立つもので、それより小さな山や丘の質量は地殻の弾性によってさきえられ、アイソスタシーとは関係がない。

アイントロプ →同位元素をいうが、→放射性同位元素(ラジオアイントロプ)のことを単にアイントロプということもある。

アイソボス →アイソトープ

アイダー Aida →バルレの歌劇。1871年作。スエズ運河開通を記念してエジプト国王の依頼で作曲。捕われのエチオピア女王アイダーとエジプトの勇将ラタメスの悲恋物語を描く。

英田(町) 岡山県東部、英田郡の町。中心集落は吉井川の支流野田川左岸の稲木。茶の特産地として有名。タバコ、バナナ、クリも産する。63,655平方*。4,334人(1970)。

相対清令特許 1685年以後数回にわたり発せられた幕府法令。訴訟事務停廃を理由に、既往の金銭貸借に関する訴訟を受理せず、当事者同士の相対に任せたもの。特に1719年のものは、今後の貸借の訴訟を全部取り上げないとしたため、旗本・御家人の路倒しが続き事実上の棄損となった。

相対売買 買手と買手が相互に相手方を選び両者の協議で売買を約定する通常の取引方法。入札、セリ等の特殊売買の対語。取引所の実物取引や店頭市場の株式売買に用いられる。

IWW 労働組合 →世界産業労働者組合

アイダホ(州) Idaho 米国西部の州。ロッキーの山地帯がほぼを占め、南部のオスグー川流域で灌漑が農業が行なわれ、主産物は小麦、ジャガイモ、テンサイ。北部のクールダレン(カーダレン)は銀、鉛、亜鉛の産地。主都ボイシ。1846年米領となり、90年州になった。216,400平方*。713,008人(1970)。

会田安明 和算家。山形に生まれ、23歳のとき江戸に出て御家人の株を買い、治水工事に従事、1787年没入。本多利明に数学を学び、関流と衝突し20年余にわたって論争、関流を立てた。千数百巻の著書を書いたが、刊行されたのは「算法天生法指南」のみ。

愛知県 (県) 中部地方南西部、伊勢湾の北および東部を占める県。県庁所在地は名古屋市中。中部地方の産業・文化の中心都市。名古屋市は中京圏の中枢。5,083.96平方*。5,386,163人(1970)。

沿革 かつての尾張・三河2国にあたり、関西と関東の中間に位置する要衝であった。戦国時代織田信長、豊臣秀吉、徳川家康を輩出、家康の子義直が名古屋城を築(1610)、以後尾張1藩、三河1藩の統治が続いた。また東海道が通じ、宮(熱田)、吉田(豊橋)など宿場町が発達、東三河は信州を結ぶ三州街道の要地であった。明治以後、尾張が愛知県となり、三河の額田県を合して現在に至った。

自然 尾張地方の西半は濃尾平野で一宮付近を境として東は弱羽台・浜積台地で高橋、南西は低湿で海岸に干拓地が見られる。三河地方との境は知多半島に続く丘陵地。三河地方は豊橋、川流域の岡崎平野と豊川流域の矢作平野のほかは起伏のゆるやかな三河高原で、高い山はない。県南部は知多半島と渥美半島が三河湾を囲む。気候は温暖な太平洋側の東海気候区に属する。

産業 産業別人口構成は第一次10.5%、第二次45.1%、第三次43.4%(1968)で、典型的な先進工業県。→中京工業地帯にあって各種の工業が発達する。特に繊維工業と窯業は全国第1の生産高を示し、尾西、地域毛織物、知多と蒲郡産の綿・スポンジ織物、名古屋の化学繊維・織物、名古屋・岡崎の陶磁器工業が代表的産業である。重化学工業も戦後は急速に伸び、東海の製鉄、豊田・刈谷の自動車と機械、名古屋の車両・航空機・マシン・時計などの生産がある。そのほか名古屋の合板、羽南の三州炭、豊橋の菓子の生産も有名。農業も集約的多角農業で、野菜、豚、鶏は全国の上位を占める。名古屋近郊の苗木、渥美半島の電照畑、安城周辺のスイカも特産。水産業では伊勢湾・三河湾のノリ、弥富町のキンギョの養殖に特色がある。観光地では三河湾国定公園、日本ライン、鯉来山などがある。

交通 東海道本線・新幹線、東名、神名高速道路など交通幹線が集中し、特に名古屋は中央本線・関西本線のほか名鉄・近鉄の私鉄も通じ、大交通網を形成している。小牧市に名古屋空港があり、名古屋港は中京経済圏を背景に貿易量が急速に伸びている。

愛知教育大学 豊橋 本部を刈谷市に置く(国立大学で教員養成が目的。愛知第一師範、同第二師範とともに1943創立、同年師範(1944)を統合して1949年愛知学芸大学を新設、66年現名に改称。教育学部のみ。

愛知高原国定公園 豊橋 愛知県北部の山地、丘陵地を占める国定公園。面積217.21平方*。1970年指定。東部は美林で有名な段戸山を中心とする隆起準平原の山地で、→香嵐渓、勘八峽などの美しい渓谷がある。西部は丘陵地で、猿投神社、定光寺などがあり、それらの社寺有林には自然林が残されている。

愛知用水 岐阜県兼山管で木曽川の取水し、名古屋東部の台地から知多半島先端に至る用水路。幹線水路延長112*、支線水路総延長1,135*、兼山から1日最大29万立方*を取水。また上水道用、工業用水を給水するほか灌漑も行なわれる。1955年愛知用水公団が設立され、57年着工、423億円の経費で62年通水した。最近では当初計画より工業用水利用量が増加してきている。

アイチン (艾青) 現代中国の詩人。浙江省の地主出身。フランス留学のち抗日前線延安で活動。作品に「大堰河」「異調」などがあり、一時新中国の代表的詩人とみなされていたが、1957年右派分子として批判され失脚した。

会津 福島県西部の地名。会津若松、喜多野2市と南会津、北会津、耶麻郡、河沼、大沼の5郡からなる。藩政時代→会津藩(松平氏)の領有であった。

会津線 西若松～会津滝、原間(57.4*の)国鉄線。阿賀野川の上流大川に沿って、1953年全線開通。会津若松が発着地。西若松で只見線(会津若松～小出間)に接続。

会津戦争 1868年鳥羽伏見の戦いに敗れた京都守護職会津藩主松平容保に追討命令が出され、奥羽鎮撫使の指揮で官軍は会津を攻めた。会津は奥羽越30余藩と同盟を結びこれに対抗、

若松城に籠城して守ったが、ついに旧暦9月降伏。藩士の子弟が組織した→白虎隊の自決はこの時のこと。

会津高田(町) 福島県西部、大沼郡の町。中心は会津盆地南部の高田で、宿野として発達、只見線が通じる。盆地で米、山地で木材を産し、兼業ニンジン、カキが特産。→伊佐須美神社のお田植祭は有名。14,641平方*。17,979人(1970)。

アイツタキ(島) Aitutaki 南太平洋クック諸島南グループの島。ニュージランド群。火山島であるが周囲に珊瑚礁、さらに外部に環礁をもつ。中心集落はアタルンガ。ココナツ、タピオカ、オレンジ、トマトなどを産する。18平方*。2,726人(1963推)。

会津塗 →会津若松市で作る漆器の総称。ぜん、登、わん等のほか、輸出向けのカクテルセット等種類は多い。1590年近江から移った蒲生氏郷が漆器業を奨励してから著った。花漆、消粉蒔絵が主で、1717年から海外へ輸出されている。

会津農書 江戸時代の農書。1684年会津藩内村の豪農、佐藤与次右衛門著。3巻。上巻稲作、中巻畑作、下巻農業経営を内容とし、同村近傍の農業技術の研究、その慣行と改良を記述した。→「農業全書」より早く、かつ「農業全書」の関東以西中心に對し東北寒冷地の農書である点が特徴。

会津藩 1598年上杉景勝120万石、1601年蒲生秀行160万石、27年加藤嘉明40万石と交替のち、43年將軍家光の弟頼朝・正之が入部し、明治に至る。藩主松平氏。表高23万石。9代容保は1868年→会津戦争に敗れ、陸奥半島3万石に移封され、降藩。

会津高田(町) 福島県西部、会津盆地西部の河沼郡の町。中心街は鶴沼川左岸の段戸山に発達、越後街道の旧宿場町で、只見線が通じる。水田が広く、タバコ、果樹の栽培、製材も盛ん。正月14日に米俵引き行事が行なわれる。91,322平方*。21,720人(1970)。

会津磐梯山 会津地方の民謡。1938～39年ごろレコード化されて全国に知られた。明治の初め越後から伝えられた新しい盆歌で、会津では「盆歌歌(かんしよ)などという。→「小原庄助さん」に始まる囃子調子が特徴的である。

会津盆地 福島県北西部、奥羽山脈と越後山脈との間にある地溝状の盆地。東西約12*、南北約35*、盆地底の標高は多くで180*。阿賀野川の上流日橋記川に多くの支流が扇状地を形成して流入する。水田単作が行なわれる早稲米の産地で、カキ、兼業ニンジンの特産。中心は会津若松市。

会津八一 会津 歌人、書家、美術史家。新潟の人。秋柳詩人、渾斎と号す。早大英文科卒。奈良の古美術を主題にした歌や、独特の書で有名。のち早大で英文学と東洋美術の講義を担当。〈法隆寺・法起寺・法輪寺建立年代の研究〉、歌集〈南京腔、新唱〉(鹿鳴集)等多くの著作がある。

会津若松 (市) 福島県西部の市。1899年若松市として市制、1955年改称。会津盆地南部とその南の山地を占め、東は猪苗代湖に面する。盆地に発達した中心市街は1384年芦名氏の築城に始まり、1590年鶴ヶ城を築いた蒲生氏郷、上杉氏の支配を経てこれに対抗、

の城下となった。会津戦争で城をはじめ市街は焼失したが城下町の面影が残る。会津地方の中心で磐越西線が通り、只見線が分岐、会津塗、酒など伝統の古い家内工業が行なわれる。市域では米を多産、兼用ニンジン、カキを特産する。鶴ヶ城跡(史)、白虎空隊で有名な飯盛山、→東山温泉がある。286.26平方*。104,065人(1970)。

ITVイティ 国際演劇協会

アイディアリズム → 概念論 → 理想主義

ITAイティ Independent Television Authorityの略。1954年英国の商業テレビ放送のために設立された公共法人。スタジオ、送信施設をもつが自主制作はせず番組制作会社にゆだねている。番組の編成・内容・広告などに対する規制監督の義務と権限をもつ。

ITPイティ International Telephone & Telegraph Corp.の略。米国の国際通信事業を独占する民間会社。1920年創設。通信事業のほか関係機器も製造、近畿、消費者金融、レンタカー、ホテル、製パンなど異種企業数十社を合併、急成長した→コングロマリットの代表例。

IDP方式イティ integrated data processing systemの略。総合的データ処理方式。事務のオートメーション化の高度の方式。経営の末端で発生したデータがすべてコード化され、全体的な流れとして中心に送られ、中心では統計計算機、電子計算機などを用いて計算、統計など情報の集中処理を行ない、経営の管理、計画、判断などを徹底的に行なう方式。データの伝送はパンチカード、磁気テープなどを用いるが、6単位テープによる印刷通信が利用される。

ITVイティ 工業テレビ

愛知県(町) 滋賀県中東部、愛知北部。町域の東部は山地で、その西縁は南北に連なる断崖をなし、西部は愛知川にかけて扇状地、台地、沖積地がつづく。米作を主とし、はかに茶色加工などの工業も行なわれる。名神高速道路が町の西部を南北に通する。41.55平方*。5,638人(1970)。

相殿合 合殿とも記。神主の主祭神に對して、1柱またはそれ以上の神を合祀した社殿、またその神(正しくは相殿神)をいう。

アイドホール テレビ像を拡大投写する装置の一つ。油膜面を電子ビームで走査してきた凸凹の像を、光学系を利用して映写幕に投写するもので、カラーも投写できる。ライトバンププロジェクトも同様な原理による。

アイトリア同盟 アイトリア 前4〜前2世紀、ギリシア中部のアイトリア Aitolia 地方を中心に結成され、→アカイア同盟とともにギリシア本土の二大同盟の一つ。前220年ころ中部ギリシアを支配、前188年同盟の同盟国となり本来の意義を失う。同盟市民は共通市民権を有し、各市は人口に応じて議員選出。

アイナメ アイナメ科の魚。地方名はアブラメ、シユウ、ネオなど。全長40*。日本全土、朝鮮、華中沿岸に分布。すみ場所により体色は黄、褐色などさまざまで、磯釣り対象魚で美味。クジメ、ウサギアイナメなど近縁のものが数種ある。

相食 相嘗ともいう。にえは神供。共食により神人結合するとの信仰に基づく儀礼。神祇に新穀を饗し、

天皇の共食された祭が相嘗祭(旧11月)であるが、律令制度の衰退とともに急速に衰えた。

アイヌ アイヌ Ainuは北海道、樺太、千島列島に住んでいたが、現在は大部分が北海道に住む。人口約17,000とされる。体質や言語は周辺民族と著しく異なり、身長は比較的低く、皮膚の黄色が少い。頭は長頭型で頭髪は黒く波状で体毛が多い。その起源については諸説あり不定。古くはサケ、ニシン、クマ、アザラシなどの獲物を追いつながら周期的に移動する生活を営んでいた。鎌倉・室町時代以降、北海道に進出した日本人(和人)との間に衝突を起すが、1789年の国後嶺・目梨嶺の乱以後は道内の全アイヌが幕府・松前藩の支配下にはいった。明治以後は戸籍、教育などの面で一般日本人との差はなくなった。しかし狩猟生活から農耕生活への転換により極度の貧困にみまわれ、1899年「北海道旧土人保護法」が定められた。その後も一貫してとられた日本政府の同化政策の結果、葬制を除けばアイヌ固有の文化はほとんど存続の基盤を失ったが、アニミズムの色彩の濃い熊祭、口承叙事詩→ユーカラ、独特の文様を刺繍した→厚巾→織の衣服などが広く知られる。なお小井良雄は日本の原住民はアイヌと説いたが、今日では多くの異論がある。また7世紀中ごろ阿倍比羅夫が蝦夷を討ったとされているが、蝦夷がアイヌであるか否かは定説をみない。ただアイ、ベツ(アイヌ語で沢、川の意)のついた地名が多いことからみて、古くは東北地方にまでアイヌの文化圏がおよんでいたことは確かといえよう。→コタン→コシャマインの乱→シャムクシャインの乱

アイヌ語 アイヌ人の固有語。北海道方言、樺太方言、千島方言の三大方言が認められるが、明治以来アイヌ人の同化が進むに従い、すでに千島方言が消滅、第二次大戦後、樺太アイヌのほとんどが北海道に移住、現在北海道諸方言も樺太方言もわずかに古老によって記憶されているにすぎず、消滅寸前である。古くは本州にも語されていたらしく、東北地方などの地名にアイヌ語起源のものがあるが、日本語はじめ諸言語との親族関係の有無は明らかでない。固有の文字はないが、ユーカラなど口承文学を発達させ、口承文学語は日常語とは方言差がない。音韻構造は単純、p, t, k, c-に有音、無音の区別がなく、閉音節、閉音節があり、単語高アクセントをもつ。文法構造では、動詞、名詞に接頭・接尾による人称接辞その他の接辞が豊富、特に動詞には主格人称接辞のほか目的格人称接辞が接合し抱合語の特徴を示す。

アイネアス Aineias トロヤの英雄。アンキセスと女神アフロディテの子。ヘクトルに次ぐ勇将。トロヤ落城からのがれてギリシア本土を巡り、諸邦に都を建てアフロディテの神祇を建立した。カルタゴで女王ディドと恋におちたこともあったが、神命によりローマに入り、四周の部族を平定してローマ王となり、ローマ国の基礎を築いた。その子孫が→ロムルスといわれる。→エネアシス

アイヌム Gottfried von Einem [1918] オーストリアの作曲家。ブラハに師事。十二音技法による「ダン

トンの死」(審判)、バレエ曲「トールンドット姫」など。

愛野(町) 長崎県南西部、南高来郡の町。島原半島の基部、千々石断崖北部の扇状地を占め、有明海と千々石湾(橋湾)を分ける。扇状地はジャガイモを多産し、ミカン園も多い。中心の愛野は島原半島へ入る交通の要地。電電公社の無線電信局がある。11.87平方*。4,350人(1970)。

あいの風 夏の穏やかな北風をいい、日本沿岸地方で広く用いられる言葉。

愛の学校 邦楽用語。うたが休んでいる間に奏される楽器の旋律。その長い間は、長限では合奏が、地歌や軍曲では手事という。邦楽で手とは、楽器の旋律のこと。

アイバク Aibak [1216] インドに君臨した最初のイスラム王朝(→奴隷王朝)の創始者(在位1206〜10)。ゲール朝のムハンマドの奴隷であったが、部将となり、インド方面の知事と司令官を兼ね、ムハンマドの死により独立した。文学・芸術のバトロンとしても有名。

アイバンク →角膜移植に際し、移植用角膜を提供する機関。目の銀行などと呼ばれる。眼球提供希望者の登録、その死後の眼球摘出・保存・輸送などを行なう。日本では「角膜移植に関する法律」(1958)で規定され、大学病院、国立病院などに設置されている。

アイバンホー Ivanhoe →W.スコットの小説。アングロサクソンと征服民族ノルマンとがけあひする大変動を背景に、騎士アイバンホーの武勇と愛が描かれる。リチャード1世、ロビン・フッドなども登場。舞台はスコットの他の作品とは異なっている。イングランドである。

アイヒ Günter Eich [1907] ドイツの詩人。自然叙情詩の流派に属し、詩集は「雨の音信」など。ひかえめな言葉で日常周辺の風物をうたいながら行間に鋭く現代生活の危機をのぞかせる。また放送劇作家としても活躍し作品集《夢》等がある。妻は→アイヒンガー。

IBM 221 International Business Machine Corp.の略、また同社製の統計機械などもIBMと呼ぶ。1896年創業のタイムリーティング・マシン会社(→パンチカードシステムを製造)を起源とし、1911年同業2社を合併設立。世界最大の電子計算機会社で、常に新機種を開発、国際特許を背景に全世界に進出、日本にも全額出資の子会社日本アイ・ビー・エム社を設立。

アイヒンガー Ilse Aichinger [1921] ウィーン生まれの女流作家で1953年アイヒと結婚。〈より大きな希望〉(縛られた男)等詩の密度の濃い散文で、現実と超現実の中間領域をとらえた異色の小説を発表し注目される。

愛別(町) 北海道中部、上川支庁上川郡の町。上川盆地の北東端にあり、石北本線が通じる。南部を石狩川が西流し、川沿いの平地は水田化している

が、大半は山地。米作中心の農業と林業が行なわれ、製材・木工業も盛ん。247.19平方*。7,443人(1970)。

アイヘンドルフ Joseph Freiherr von Eichendorff [1798] ドイツの後期ロマン派の詩人。シレジアのブローゼン貴族の家に生まれ、熱心なカトリック。天性の心情詩人で、民謡の素朴さと敬虔的な心情をたえた作品はシューマン、メンデルスゾーンその他の手で作曲されている。長編小説「予感と現在」のほか、楽天的な自然児の放浪の物語「のらくら者の生活から」が有名。

アイホーリ Aiholi (Aihole) インド、マイソール州北部の村。5〜7世紀に建立されたヒンズー教、ジャイナ教の寺院が70以上もあり、チャールキヤ王国興隆の中心地と推定されている。ラード・カーン寺(450ころ)、ドゥルガー寺(500ころ)等がある。

アイボリー紙 さらし化学パルプを原料とし、顔料の塗布加工を施さずに、高度の仕上げをした厚紙。用途はカード類、招待状、絵がはき、上質の名刺など。アイボリー板紙は両面を塗布した、光沢のある象牙色の板紙。用途は書籍の表紙、メニュー用紙など。

アイマク モンゴルで一定の遊牧地を共有する社会集団の名称。転じてアイマク ayimag は行政区画の名称となる。チンギス・カン時代には千戸・万戸単位、元末には諸王・功臣の集落、明代にはオドクとともにウルス(部、国)を構成する重要な単位となる。現在はモンゴル人民共和国の行政区。

アイマラ族 南米のアメリカインディアン。ペルー、ボリビア両国にわたって、主としてチチカカ湖を中心とする高原に約60万人住む。言語はアイマラ語。

会見(町) 鳥取県西部、法勝寺川支流朝霧川の流域にある西伯郡の町。土集落の天万は藩政前期の出雲往來の旧宿場町。米のほか葉タバコや二十世紀ナシの栽培、製材、牛肉飼育を行なう。古事記所載の手間山、出雲国風土記所載の手間割山があり、古代伯耆の中心とみられる。31.04平方*。3,755人(1970)。

鑑光 鑑光 [1892] 洋画家。広島県生まれ。本名石村日郎、画名鑑光。1924年大阪の天形画塾に学び、翌年上京して太平洋画会研究、に入所。39年美術文化協会の創立に参加、42年新人画会のメンバーとなる。このころから超現実主義の傾向を深める。シャンハイで戦病死。代表作「自画像」(目のある風景)。

アイモカメラ Eyemo camera 米国ボート・ハウエル社製35ミリ映画手持ち撮影機。30.5*のフィルムを装填し、スプリング巻上式で作動。1955年ころまでニュース撮影に独自の活躍を示す。

アイユーブ朝 エジプト、シリア、モロッカおよびアラビアを領有したスンニー派の王朝(1169〜1252)。首都はダマスカス、のちカイロ。始祖は→サラディン。初期には十字軍を撃破したが、治績もあがったが、分割相続、分権政治のため主権は動揺し、マムルーク出身の武將の内乱により、アイベクが即位して9代続いた王統は絶えた。

吾平(町) 鹿児島県南部、肝属郡の町。大隅半島中央の肝属平野に土集落があり、南部は山地と山地。古江線が通じる。米、サツマイモを産し、最近果樹と畜産も活発。58.68平方*。

7,933人(1970)。

始良(町) 鹿児島県中部、鹿児島湾北端に臨む始良郡の町。大半は山地と原野で水田の生産力も低いが、農業構造改善事業による養鶏が進められている。市街落は日豊本線が通じる峠佐に接、鹿児島市の南東に伴う住宅地がふえ、工場も進出している。102.92平方^キ。23,605人(1970)。

アイリス アヤメ科植物の一種名で、北半球に約180種ほどある。葉は剣状か線状で根茎と球茎が別れ、花被片は6枚でうち3枚はがくに当たる。根茎種はナシロウ、シンガ、ドイツアヤメ等、球茎種はイギリスアヤメやダッチアイリスが代表的。

アイリッシュハーブ 元来アイルランドのハーブをいい、近代ハーブが発達する以前は広く用いられた。いまは主として半音操作をペダルではなくフック(鉤)によって行なう簡略な機構をもつものをいう。

アイリング Henry Eyring^[90] 米国の物理化学者。メキシコ生まれ。1912年渡米、35年帰化。38年プリンストン大学教授、46年ユタ大学教授。31年ポロニウムに活性化エネルギーの量子論的計算法を発表。素反応の理論的研究を行なう。

●**アイルランド(共和国)** Ireland →アイルランド島の大部分を占める共和国。エールÉireとも。レンスター、マンスター、コナハット、アルスターの4州からなり、国土の約70%が農地、牧場。首都ダブリン。70,283平方^キ。2,970,000人(1971)。住民はケルト系で88%がカトリック教徒。公用語はアイルランド語と英語。酪農を主とする農業国で、主要農産物はジャガイモ、小麦。地下資源に乏しく、工業はバター、チーズなど食品加工業、タバコ、製糖が主で、家畜、酪農製品を輸出し、石油、石油、工業製品を輸入する。1916年英国支配に抗してダブリンで武装蜂起があった。1919年農民の武装闘争が始まった。21年英国との条約が成り、22年北部を除きアイルランド自由国が成立した(→アイルランド自治問題)。37年新憲法を制定、国号をエールと改定。第二次大戦中は中立を維持。49年憲法を改正、国号をアイルランド共和国に改め、英連邦から離脱して完全な独立国となった。

アイルランド(島) Ireland イギリス諸島第2の島。アイルッシュ海を隔てて東方のグレートブリテン島と対する。→北アイルランドと→アイルランド共和国に分かれる。約82,000平方^キ。島の周辺部は褶曲による地塊山地で、中央部は広い低地帯。全域が氷食をうけ、水食湖が多い。最高点はカラランツアル山(1,041^メ)。温暖な海洋性気候に恵まれ、おもに酪農が行なわれる。前4世紀ころまでにケルト人が渡来し、5世紀にキリスト教がはいった。12世紀以降イングランドが支配。17世紀クロウェンに征服された経済的・宗教的な圧迫を受けた。18世紀初頭からカトリック信教の自由を求める反乱が起こり、1829年→カトリック教徒解放令が出された。しかし農民の貧困と反抗はその後続いた。19世紀末反乱には凶作とアメリカ移民などによって人口は半減した。

アイルランド語 印欧語族のケルト語派に属する。最古の資料はオガムと呼ばれる特殊な表記による5〜6世

紀ごろの碑文。その後に宗教上の文献が続き、中世にはすぐれた文学がある。19世紀以後急速に英語化されたが、独立後復活運動が行なわれた。ラテン語といくつかの共通の特徴をもつ。

アイルランド自治問題 1801→アイルランド島は12世紀以来イングランドに征服され、清教徒革命中クロウェンの遠征によって土地を没収され、イングランド人の不在地主によって収奪された。宗教上・政治上の差別も加わったため、17〜18世紀にはしばしば反乱が起こり、そのたび激しい弾圧を受けた。1800年イギリス王国に併合され、29年→カトリック教徒解放令が成立したが、小作権の安定と地代の軽減を望む土地問題と、アイルランド人による自治要求の二つが、19世紀後半のイギリス政治の焦点となった。1914年自治法の成立後、→シン・フェン党を中心とする独立運動が激化し、22年アイルランド自由国が自治領として認められた。

アイロタイシン 抗生物質→エリスロマイシンの商品名。

アイロニー 皮肉、反語。言わんとすることの反対を述べることにによって言わんとすることをいっそう効果的に相手に理解させる方法。1. ソクラテスのアイロニー。ソクラテスは無知をよそおって他人の教をこうすることにより、かえって相手に無知を自覚させた。2. ロマンチック・アイロニー。ロマン派、くにドイツ・ロマン派では、天才が世間や道徳や運命などすべてのものを越えて、それらを見下す超越的な気分。3. ケルケゴールでは内面と外面、自己と世界の不均衡から自己否定的な意識。美的実存の内的性格を示す。

アイロン 衣料などのしわをのばすには、火熨斗や、アイロン、熱源は炭火であった。電気アイロンの出現は20世紀初めとされ、家庭用は250〜500ワットの電熱式が多く、近年→スチームアイロンも普及した。理髪用にははきみタイプのアイロンが用いられる。

アインシュタイン Albert Einstein^[92] 米国の理論物理学者。ユダヤ系。南ドイツのウルムに生まれ、スイスのチューリヒ工科大学を出て、1902年ベルン特許局技師となり、05年→特殊相対性理論、光子仮説、ブラウン運動の理論、07年固体比熱の理論を発表。14年ベルリン大学教授、16年→一般相対性理論を完成、21年ノーベル物理学賞、29年統一場理論を提唱。33年ナチスに追放され渡米、プリンストン高級研究所員となり、40年市民権を得た。1939年原子爆弾開発の必要をルーズベルトに達し、平和運動、世界連邦運動にも尽力。

アインシュタイン塔 1924年ボツダム天文台に建てられた最初の→塔望遠鏡。アインシュタインの一般相対性理論から結論される太陽スペクトルの赤方偏移を検証するため建設されたのでこう呼ばれる。

アインスタイニウム Es 原子番号99。超ウラン元素の一つ。1952年太平洋で行なわれた熱核爆発実験の生成物からシーボークが発見、物理学者アインシュタインにちなんで命名。知られている同位体の数は11。そのうち半減期の最も長いものは²⁵⁴Es(280日)。

アイントホーフ Eindhoven オランダ南部、北ブラバントの商工業

都市。電気通信機工業で世界的に有名なフィリップス社の主工場がある。1956年に大学が創立された。市の創建は1232年。184,500人(1968)。

アイントホーフ Willem Einthoven^[93] オランダの生理学者。ユトレヒト大学に学び、ライデン大学教授となる。活動電流を測る電流計を考案。心臓の拍動測定を進歩させ、1924年ノーベル生理学賞。

アインハルト Einhard^[9075] カロリング朝フランクの歴史家。エギンハルトEginhardともいう。アルクインの弟子としてカール1世の宮廷に入り、建築、外交などに従事。著書「カール大帝伝」は格調高いラテン文でカロリング・ルネサンスの代表作。

アウアー Leopold Auer^[98] ハンガリーのバイオリニスト。20世紀バイオリン界に大きく貢献。ヨアヒムに師事。ベルリン音楽院在任中にエーデルマン、ハイフェッツなど幾多の名手を育てた。

アウアー Carl Auer von Welsbach^[98] ウェルสบachとも呼ばれる。オーストリアの無機化学者。ウィーン生まれ。ハイデルベルク大学でボンゼンに学び、希土類元素の化合物を研究。1885年プラセオジムとネオジム、1907年ルテチウムを発見。またガスマントル(アウアー灯)、オスミウム白熱電灯、→アウアー合金の発明者として知られる。

アウアー合金 オーストリアのC. アウアーが発明した→発火化合物の一種である。アウアーはガス灯用マントル製造の廃物からセリウム50%、ランタン、ネオジム、プラセオジムなど45%の合金を作った。現用のアウアー合金は鉄、セリウム各35%、ランタン24%。

アウエンブルッガー Leopold Auenbrugger^[98] オーストリアの医学者。ウィーン大学卒業後、ウィーンのスペイン病院に勤務し、のち開業。近代医学上最も重要な物理的診断法の一つである打診法を創始。

アウグスチヌス Aurelius Augustinus^[98] 聖人。初期キリスト教最大の教父。北アフリカ、ヒッポの司教。ローマ官吏で異教徒の父、篤信の母モニカの間に、タガステで生まれた。カルタゴで修学を終えたが、若い情熱にかられて放蕩の生活を送る。真理探究のためモニカを信じ、新プラトン主義哲学の研究ののち、ミラノの司教アンブロシウスの感化と母の祈りによって改宗。キリスト教神学、倫理学、社会学の基礎を確立した。著書「告白録」は個人的証言によって悪魔、をたてたる神への賛美録。「神国論」は神国と悪魔の闘争を描いて歴史哲学を展開。

アウグスツ →オクティアヌス

アウクスブルク Augsburg 西独、バイエルン州の都市。レヒ川とその支流ヴェルタハ川の合流点にあり、交通・商業の要地。繊維・金属・機械工業が発達している。起原は前15年のローマの軍団駐屯地で、8世紀に司教座がおかれ、1276〜1806年は自由市。ミラノやベネチアとの交易で中世商業の一大中心となり、→フッガー家、→ウェルザー家などの大家豪が活躍した。三十年戦争、第二次大戦で被害を受けたが、ゴシック寺院、貧困者用集団住宅として世界最初のフッゲライ(1519)などが残っている。213,000人(1969)。

アウクスブルク同盟戦争 →

プファルト戦争

アウクスブルクの和議 1555年、→宗教改革に伴うドイツの宗教的対立に一応の決着をつけた条約。新旧両派の同権を基礎としたが、そこでいう新教徒はルター派に限られ、カルバン派は除外。信仰の自由は、原則として諸侯・都市当局が決め、不満な住民は移動するこだけ許された。
アウシュビッツ Auschwitz ポーランド南部、クラクフ西方約50^キの都市。化学・金属加工・皮革工業が行なわれる。第二次大戦中ドイツに占領され、郊外に巨大な強制収容所が設けられて、ユダヤ系一般市民など約400万人が殺された。ポーランド名はオシフィエンツム。36,600人(1966)。

アウスグライヒ →オーストリア・ハンガリー帝国

アウステリッツの戦い 三帝会戦とも。1805年ナポレオン軍がロシア皇帝アレクサンドル1世とオーストリア皇帝フランツ2世の連合軍をアウステリッツAusterlitz(ウィーン北方。当時オーストリア領、現在チェコ領)に破った戦い。第3回対仏大同盟はくずれ、プレスブルクで和議。

アウストルロビテクス →オーストラロロビテクス

アウストラアジア語族 南アジア語族の意。W.シュミットが、インド中部からベトナムにわたる地域に散在する諸語、1. マライ半島のセマング、セノイ、2. アッサムのカシ、ニコバル諸島のニコバル、サルウィン川中流域のバラウン、ワ、リアン、3. モン・クメール、ムンダ、チャム、南ベトナムのラデ等と系を同系と認めてこの名を与えた。主要言語の名をとってムンダ・モン・クメール語族とも、ベトナム語も加えてモン・クメール語族とも呼ばれる。これら諸語の親族関係は完全に証明されたものではなく、蓋然性のうえに立てられた仮説である。シュミットはさらにこの語族と→マライ・ポリネシア語族を合わせてアウスロシッシュ(南方語族)と名づけた。

アウスロネシア語族 →マライ・ポリネシア語族

アウタルキ 重要資源や原料を自給自足する、輸入に依存しない経済圏。またはこれをめざす国家的経済政策。とくに1933年以降「持たざる国」独逸、伊が「持てる国」列強に対してこの政策を推進(広域圏、大東亜共栄圏)、列強の経済支配圏に選出し第二次大戦を招いた。→ブロック経済

アウト Jacobus Johannes Pieter Oud^[98] オランダの建築家。ブルームフェルト生まれ。アムステルダム工芸学校出身。→デ・スチール派の一人として構成主義的な建築を作り、1920年代以降は正統的なヨーロッパ機能主義の指導者として活躍。ロッテダムの集合住宅など社会的意義の大きい作がある。

アウトグループ →内集団・外集団
アウトサイダー 一般的には共同行為外にあるもの、非加入者・非加盟者ともいう。1. 経済的には→カルテルの統制外にあって競争の立場をとる企業。2. 社会的には→内集団・外集団の概念のうち外集団をさし、局外者の立場をとる者。3. 労働関係では→法外組合をさす。
アウトサイダーユニオン →法外組合

アウトバーン Autobahn ドイツの高速自動車道路。1913年ベルリンに建設された試走道路 アーブス Avus が発端で、25年ごろから各地で建設企画を開始、32年ケルン-ボン間に欧州初のアウトバーン開通。33年ヒトラーのもとで、高速自動車国道(ライヒスアウトバーン)17,000kmの建設計画が開始され、第二次大戦終結時には延長2,100km。その後東西ドイツで政府事業として継続され、東独で1,531km(1975)、西独で6,207km(1976)(ブンデスアウトバーンと改称)に発達している。

アウフヘーベン ↑揚揚。
アウランジープ Aurangzeb(1585-1707) 1658年クーデタにより王位を得る。イスラム教への信仰厚く、ために異教徒を圧迫する。その結果→シク教徒やラジプット族が離反し、ムガル朝の崩壊を早めた。

アウレリアヌス Lucius Domitius Aurelianus(215-275) ローマ皇帝(在位270-275)。ゴット族、バナル族の侵入を撃退して帝国を再建、パルミラをも滅ぼしたが、パルシア遠征中暗殺された。ローマ市の城壁を修築。

アウロス 古代ギリシアの楽器。→キタラと並んで代表的。アジアが起源。クラリネット系またはオーボエ系の管楽器で、2本の管を同時に鳴らす。ディオニソスの祭礼の音楽に用いられ、激しくリズム的な音を出す。(aulos)

アウロラ Aurora →エオスのローマでの呼び方。

阿吶。阿の音と吶の音。梵音の a と hām の音。阿は口を開いて出す最初の音。吶は口を閉じて出す最後の音。密教では阿は万物の原因(因)、吶は万物の結果(果)とする。寺の門や神社にある阿吶と獅子、狛犬などは阿吶を表わす。

阿美。阿の音と美の音。梵音の a と mī の音。阿は口を開いて出す最初の音。美は口を閉じて出す最後の音。密教では阿は万物の原因(因)、美は万物の結果(果)とする。寺の門や神社にある阿美と獅子、狛犬などは阿美を表わす。

アエギル Aegir 北欧神話の海神、アサ神族より古い神らしい。妻はラン Ran。

取国神社 岐阜県上野市一宮に鎮座。旧国幣神社。主祭神取国津彦命は四道将軍の一人大彦彦命と同一とされる。延喜式では国幣の大社。伊賀国の一宮。例祭12月5日の夜獅子神楽が行なわれる。

AEGテレフンケン会社 Allgemeine Elektrizitäts-Gesellschaft, Telefunkenの略。1883年ジーメンス会社と米国のGEが共同設立した西独の電機会社。重・弱電、電気車両、原子力など多角経営で欧州・米電機コンツェルンの一つに数えられる。音響機器・テレビのテレフンケン、事務機器のオリンピア商社も世界的に有名。

エアタ族 エフィリピン諸島中ルソン、ミンタナオ、パラワンなどの山地に住むネグリティ系矮小種黒人種Aeta。この諸島の先住民族として知られる。人口約2.5万。原始的な採集・狩猟生活を営み、各地を放浪して歩く。弓矢の使用は独特。

アエチウス Flavius Aetius(391-455)

西ローマ帝国の将軍。ゲルマン諸族の侵入を防ぎ、奴隷反乱を鎮定するなど衰退していく帝国のために奮闘。451年→カタラウヌムの戦いに→アッテラを破った。

アエネイス Aeneis →ウェルギリウスの叙事詩。12巻。前30〜前19年に完成。英雄→アイネアスがラチウムの地にローマの基礎を築くまでの物語。前半はホメロスの『オデュッセイア』を、後半は『イリアス』を模している。世界制覇を成し遂げたオクタウィアヌスの業績を飾り、ローマの栄光と偉大さをたのめるのにふさわしい国民的叙事詩として評判が高く、ホメロスの2作と並ぶ名作とされる。

葉庭畫村 作家、劇評家。本名は与三郎。江戸生まれ。1874年読売新聞に入社、86年『当世商人気質』を発表。八文字屋風の戯作で知られ、須藤南翠(1889)と明治初期の文学を代表し、竹の屋主人の号で劇評にも活躍した。

和物 野菜や魚介類をゴマ、みそなどの調味料で混ぜ合わせた日本料理。惣菜、酒のさかなとして広く用いられる。あえる調味料を和衣類といわれ、材料によってゴマ和え、クルミ和え、木の芽和え、白和え(豆腐を用いる)、酢みそ和えなどがある。

アエロフロート Aeroflot ソビエト民間航空公社。1923年国内定期航空開設、30年代に国際線を開拓。40年国以上及び輸送量は70万t。余て、経営規模は世界最大。輸送のほか魚、建設、探検、地質調査、救難などの航空事業も独占。67年日本航空との共同運航で東京へも乗入る。

亜鉛 Zn 原子番号30、原子量65.38。比重7.14、融点419.5℃、沸点907℃。青みをおびた銀白色の金属。空气中では塩基性炭酸亜鉛の被膜をつくり、内部を保護する。高温に熱すると緑白色の炎をあげて燃え、酸化物となる。→イオン化傾向大く、希酸には水素を発生して溶ける。濃アルカリ溶液でも水素を発生し、亜鉛酸塩となる。遊離して存在しないが、地球上広く分布。主要鉱石はセン亜鉛鉱で、浮遊選鉱により鉛精鉱と分離。Zn約60%の亜鉛精鉱は焙焼して酸化物とする。製錬は酸化物をレドット、電気炉などに投入、炭素で還元しつつ蒸留する乾式法、酸化物を硫酸で処理した硫酸塩を電気分解する湿式法があり、近年、鉛・亜鉛同時精錬の→ISP法も出現。亜鉛の主要産出国は米国、ベルギー、カナダなど、日本では神岡(岐阜)が著名。亜鉛鉄板など鉄鋼製品のめっき、黄銅その他の合金、→ダイカスト、印刷版などに使用。

亜鉛華 →酸化亜鉛の別名。医薬、白色顔料として用いる。医薬では皮膚の剥脱面などに湿疹、たむし、膿瘍疹などの処置に外用剤として広く応用される。無毒で収れん性がある。デンブレンやタルクと混じった亜鉛華デンブレン、植物油と練り合わせたチンク油、その他各種軟膏剤として用いられる。

亜鉛鉄板 薄鋼板(厚さ0.198〜2.38mm)に亜鉛をめっきしたもの。トタン板と名。コイル状の→広幅帯鋼を連続的に電気めっきして量産。板を1枚ずつ溶融亜鉛槽につける方法は今日ではほとんど行なわれない。耐食性がよく、屋根板その他建築に多用。平板、

波付板の別があり、後者はなまこ板とも呼ばれる。

アイオイ(葉) アイオイ科のフニアオイをいい、薬用ならびに野菜として栽培する。中国、インド、西アジア原産。類品にゼニアオイ、タチアオイ、トロロアオイ、モミジアオイ(各項参照)などがある。また御川家の紋章の葉はウマノスズクサ科の多年草→フタバアオイ、一名カモアオイで、その類品に→カンアオイがある。

アイオイガイ →ダイココ

アイゴケ →ガイコンドラ

青い鳥 →マーテルリンクの童話劇。6幕。1908年初演。クリスマス前後、チルチルとミチルの兄妹は、幸せの使いである青い鳥を求め、妖精に誘われて思い出の国、幸福の園、未来の国などをめぐるが、どこにも見つからず、目がかきめると、枕元で1羽の鳥かたに青い鳥がいた。幸福は身近にあることを寓意した幻想的な童話劇で、広く読まれ上演された。

莫上 ①能の曲目。四番目物。怨霊など。五流現行。六条の御息所などの嫉妬の生霊。②ライパールの莫上(光源氏の正妻)。1枚の小袖で病臥の態を表現を苦しめ、鬼形と変じて力と抗争する。人間の潜在意識の恐ろしさを描いた名作。世阿弥の改作。詞章、演出ともにすぐれ、しばしば上演される。②(2)曲の曲名。山田校作曲。文化年間末ごろの作。①の一節を用いたもの、山田流「四つ物」の一つ。

青い花 →ノバリスの小説(ハインリヒ・フォン・オファターディンゲン(1802)に文学・詩の象徴として出てくる花で、それ以来ロマン派文学の、またその無限へのあこがれの象徴とされる。

葉紫 →賀茂紫野。

青色申告 青色申告制度。所得税と法人税について、税務署長の承認を得て所定の帳簿に所得金額にかかわる取引を記録し、これに基づいて確定申告書(青色申告書)を提出する。各種の引当金や準備金の設定、損失の繰越、更正理由の明示など税法上の特典がある。

アオウグサ →ウグサ

亜欧堂山善 江戸後期の画家、銅版画家。岩代須賀川生まれ。本名は月岡善吉、略して田善と称した。画題→月夜、→谷文晁に学び、さらに長崎の蘭学者に洋風画や銅版画を学んだ。『浅間山真景図』(油絵)、江戸風景の銅版画等身近な自然に取材した風景画のほか、世界地図や宇田川權蔵『医範提綱』の解剖図も制作した。

白馬節会 朝廷の年中行事の一つ。正月7日に白馬を紫宸殿の前庭にひき出し、天皇のあと、宴を開く儀式。邪気を払う効果があるという中国の故事による。初め「かも羽衣」(大伴家持)つまり青色の馬であったが、のち白色が重んじられ、白馬となったという。

アオウミガメ 正覚坊説とも。ウミガメ科。甲長1〜2m。背甲は青みがかった黒褐色で、腹面は淡黄色。太平洋、インド洋、大西洋に分布し、アマモなどの海藻の豊富な浅い海に生息する。雑食性だが、主として海藻を食べ、産卵のため回遊する。肉と卵は食用となるが、乱獲のため保護を要する。

オガエル オガエル科に属する緑色のカエル。日本には→モリアオガ

エル、シュレーゲルオガエルがいる。後者は体長4〜6cm、本州、四国、九州の固有種で、体背面は黄緑色で変色しない。4〜6月に田のあぜの土中などに泡状の卵塊を産む。南西諸島にはアマリアオガエル(8〜9cm)、濃淡に変化する緑色の背面をもち、樹上性)などが分布する。

青垣 兵庫県中部、水上郡の町。佐治川上流に沿う中心の佐治は但馬と大阪を結ぶ街道の宿駅として栄えた。製材業のほか、木綿と絹糸の混織、草木染の民芸品「丹波布」を産する。和牛飼育、酪農が行なわれる。100.15平方km。8,673人(1970)。

青ヶ島 東京都から約360km南方にある伊豆諸島中の島。東京都八丈支庁青ヶ島村をなし、5.23平方km。234人(1970)。全島断崖に囲まれた火山島で耕地も少なく、ザンマイモ・サトイモ栽培、漁業も自給程度。良港がなく東京から月1回定期船便があるが、冬は欠航する。

アオカビ (青黴) 数種のカビの総称。果実、パン、茶殻などにはえ、分岐した菌糸に多くの分生子柄を生じ、その先は数回分岐してほくす状をなし、先端に球状の分生子をつける。菌落は青色を帯びる。有機物を腐敗させ、→黄変米の原因となるものもあるが、チーズ、有機酸、ペニシリン製造用の種類もある。

青枯病 トマト、ナス、タバコなど多くの植物を冒す病気で、茎葉が青いまま急にしおれて枯れる。病原菌は土中で根から侵入する。茎のはえきわを切ると、道管が褐色に変色、乳状物がしみ出る。病原菌の系統により被害作物が異なるので、適当な作物の選択、輪作、および土壌消毒などで防ぐ。

アオキ (青木) 関東以西の日本各地の林中に自生するミズキ科の常緑低木。雌雄異株。冬に実が赤く美しい。庭木として多く栽培されており、既入品種も多い。白実の変種もある。半日陰地のほうが生育よく、繁殖は実生、またはさし木による。大気汚染に強い。

青木ヶ原 富士山北西麓の原野で、山梨県山北町、南都留町2部に属する。864年の代官で流出した青木ヶ原丸尾の落着流が風穴、氷穴、樹型を生じ、落着流上は青木ヶ原樹海と呼ばれる混交林の大原始林をなす。自然記念物。落着流末端部に卑止湖の西、精進湖、本栖湖がある。樹海展望ルートは富士山麓道路(国道139号線)。

青木湖 長野県北部、大町市に属する→仁科三湖の一つ。面積1.86平方km、湖面標高822m、最大深度58mの貧栄養湖。湖南部に発電所があり、白馬連峰の展望にすぐれ、西岸にはキャンプ場がある。

青木昆陽 江戸時代の儒者、農学者、蘭学者。名は敦書、通称は文蔵。江戸の町家の出といわれる。伊藤東涯に国学を学び、大岡忠相に知られて幕府に仕え書物奉行に至る。『蕃語考證』(1735)を著わし、サツマイモの栽培普及に努め、甘藷先生と呼ばれた。またオランダ語の初歩を学び前野良沢に教え、蘭学の始祖となった。

青騎士 →ブリュッケに続くドイツ近代絵画史上の重要な運動。1911年カレンスキー、マルクによってミュンヘンで結成され、のちクレーも参加。

またシェーンベルク、ウェーベルン、ベルクの音楽家も協力した。色彩によるリリックな抽象への傾斜を示し、ドローネの→オルフィスムに共鳴。展覧会にはブリューゲルの画家をはじめ、H.ルソー、ピカソ、ブラック、ブランク、マレービッチら当時の前衛芸術家を幅広く招待した。

青木繁 〔附〕 明治期の洋画家。久留米生まれ。1899年上京、→小山正太郎の不同舎に入居。1904年東京美術学校西洋画科専科卒。その前年白馬会展に「黄泉比良坂」など日本神話に取材した画稿を出品、第1回白馬賞受賞。04年の「海の手」、07年の「わたつみのいるこの宮」は、大きな反響を呼んだ。のち九州を放浪、29歳で病没。美しい色調とロマン的な作風は、明治浪漫主義の絵画表現として近代日本美術の貴重な収蔵となった。福田蘭童〔附〕はその子。

青木蘭童 〔附〕 外交官。長州藩出身。洋学を学び、1873年駐独外務一等書記官となり外交畑に入り各国公使歴任後、井上馨外相の下で条約改正案を起草。89年外務大臣となり→条約改正を促進したが大津事件で辞職。94年駐英公使となり法権を回復した対英条約の調印に成功。のち枢密顧問官となった。

青木正児 〔附〕 中国文学者、山口県に生まれる。明・清の戯曲を論じた「支那近世戯曲史」、歴代の文学・音楽・美術などを論じた「支那文学芸術考」は、中国芸術研究上有名で、その風格ある文体は定評がある。『北京風俗図説』は中国留学中の力作。

青木木実 〔附〕 江戸後期の陶工、南画家。京都の人。高芙蓉、木村兼葎堂の感化を受け、さらに陶法を奥田頼川に学び、奥田に開業。青磁、染付、南蛮写し等煎茶器を得意とし、清国人朱笠亭の「陶説」を翻訳。絵は晩年の作が多く、奇妙な構図や大胆なタッチ、特に藍と赭を多用した山水画は新鮮な色彩感覚を示している。代表作「兎道朝歌」など。

アオギリ (楮桐) アオギリ科の落葉高木。東南アジアの山地に自生し、日本の暖地に野生化している。葉は互生し、大形で長い柄がある。浅く3〜5裂し、基部は心臓形で鋸歯はない。6〜7月枝先に大形の円錐花序を出し、雄花と雌花をまじえ淡黄色の小さい花が多数開く。がく片5個。花弁はない。果実は円形にさけ皮の緑地に1〜5個の種子をつけ10月に熟す。庭木、街路樹に。

アオサカメムシ 半翅目カメムシ科の昆虫。体長15mm内外、鮮緑色、まれに黄褐色。年2回発生し、成虫で越冬。雑食性で各種の農作物や果樹に加害する。分布は日本全土、中国など。よく似た害虫にアオカメムシがあり、アジア、アメリカ、南欧に広く分布する。

アオゲラ キツツキ科の鳥。翼長14.5cm、緑色で日本特産。本州、四国、九州および琉島の森林にすみ、一年中見られる。木の幹に縦にとまり、じょうぶなくちばしで昆虫を掘り出して食べる。太い木に穴を掘って巣を作り、口笛のような大音でビョービョーと鳴く。

青粉 養魚池、地盤、金魚鉢などで水を青緑色に変じさせる微小な藻類の総称。主として緑藻、ラン藻で、晩春から夏に多い。魚や動物プランクト

ンの食料となり、炭酸同化作用によって魚によい環境を与えるが、あまり繁殖すると逆に魚が呼吸困難になり、青粉も枯死沈殿する。これを「水変り」といって養魚池などで大被害を与える。

アオサ 緑藻類アオサ科アオサ属の海藻の総称。体は膜状で2層の細胞からできている。代表種にアナオサとボタンアオサがある。ともに全国各地沿岸の潮間帯に生育する。前者は大形で多数の穴があいている。大きさ20〜30cm。後者は小形で団塊状である。大きさ2〜5cm。

アオサイ ベトナムの婦人衣服。アオは着物、サイは長い意。クワンというゆるい白絹のズボンを下にはく。中国服の影響を受けたスリットの長いドレスで南方の気候に適する。糸はチャニースカラーで、紐付きの大きなクーリーハットのような帽子をかぶる。

アオサギ サギ科の鳥。翼長45cmでサギ類中最大。欧亜大陸の南半分に広く分布し日本では全国の水辺に一年中見られる。大木に集団で巣を作る。翼をゆくりはばたき、首をちぢめ、足をのばして飛ぶ。魚、カエルなど水辺の動物を食べる。

青侍 〔附〕 あおきぶらい。平安時代、公卿に仕えた六位の侍。六位の位階は「藤原色(藤原色)」であることから呼ぶといわれ、また未熟の意からくともいう。総じて年若く身分の低い侍を呼んだらしい。なお青侍の妻、さらに若く身分の卑しい女房を青女房などという。

アオサメ アオサメ科(ネズミザメ科)の大形のサメ。地方名アオ、アオキ、イラギなど。太平洋〜インド洋の暖海に分布し、全長3mほど。外洋性でどう猛、肉食性で人間をも襲う。近頃は練製品の原料として重要。近似種にバケアオがあるが、肉質が劣る。

アオジ ホオジロ科の鳥。翼長7cm。極東地方に分布し、日本では本州中部以上の低木林で繁殖し、冬は温暖地の林ややぶにすみ。地上または低い枝に皿形の巣を作り、草の種子や昆虫を食べる。さえずりは美しい。カッコウの仮親となることがある。

青島 宮崎県宮崎市に属する小陸繋島。ピロウの大群落など熱帯・亜熱帯性植物群落(特天)、鬼の洗濯板と呼ばれる砂岩と頁岩の互層の海食台(天)があり、日南海岸国定公園の中心的観光地になっている。宮崎市街から通じる日南線青島駅に近い。

葉島 〔附〕 葉島特産。

青写真 〔附〕 ショータイプともいう。1842年英国のJ.ハニェルの発明した写真法で、古くから技術図面などの線画の複製に多用。ケエン酸、シュウ酸または希硫酸などの第二鉄塩を主剤とする溶液を透明な紙に、トレーシングペーパーに墨で書いた図面を重ねて露光すると、光の当たった部分の第二鉄塩が還元されて第一鉄塩となる。これを赤血塩溶液に浸すとターンブルブルーの不溶性沈殿をつくり、水洗する。未感光部分の第二鉄塩が溶け去り、青地に白く原因が復写される。赤血塩の代りに黄血塩溶液で処理すると、逆に第二鉄塩のほうが反応して白地に青く復写される。前者の場合、第二鉄塩と赤血塩はあらかじめ混合溶液として紙に塗っておいてもよい。

アオスジアゲハ 鱗翅目アゲハチョウ科。開張80mm内外、黒色で淡青色の縦帯がある。年2〜4回発生、春型は縦帯の幅が広い。幼虫はクスノキ科植物の葉を食う。関東以西では普通、東北ではまれ、北海道には産しない。東南アジア、インド、豪州に広く分布する。

青緑地帯 〔附〕 →赤緑地帯

青そこひ →緑内障子

青空 →空

アオダイショウ ヘビ科の無毒ヘビ。日本最大で体長2〜2.3m。固有種。北海道〜九州に分布。性質はおとなしく、平地の耕作地などにすみ、ネズミ類を求めて人家や倉庫にもはいつてくる。鳥のひなや卵を食べるが、ネズミを捕食するの有益。岩国の→シロヘビは本種の白化型。

青田売り 〔附〕 貧窮農家が稲の刈入れ前に青田のまだ収穫を見越して売ったりすること。売却先はおもに米穀商や肥料商で、金の前借りをして不当に買いたたかれる場合が多かった。戦前の農村で広く見られ、播種前に販売する黒田売りもあり、また野菜や果樹についても行なわれた。

青地林宗 〔附〕 江戸後期の蘭学者、医師。名は豊、号は芳譜。林宗は字。父は松山藩医。蘭学を馬場佐十郎に学び、幕府の司方医官となった。著書「気海観瀾」は日本最初の物理学書といわれる。また露人→ゴロニン(「遺臣」日本紀事)いわゆる「日本幽囚記」を共訳した。

アツツラフジ →カミエビ

青砥稿花彩画 〔附〕 →白浪五人男

アオトド →トドマツ

青ナイル 〔附〕 エチオピアの→タナ湖に発しアビシニア高原を南流、ついで西流し、スーダンに流れ北流、ハルツームでナイル川(白ナイル)に合流。全長約1,500km。ナイル川の灰白色の水に対し、水が澄んだ青色に見えるのでこの名がある。アムハル語ではアバアAbbaという。

青根 (温泉) 宮城県栗原市田崎町、蔵山山麓、標高500mにある。単純泉で湯量豊富。43〜56℃。硫黄と温泉を経て蔵山エコーラインに連絡。太平洋まで展望できる。東北本線大河原、白石、仙台各駅からバスがある。

青野季吉 〔附〕 評論家、佐渡生まれ。早大英文学。1922年「心霊の滅亡」を発表、翌年「種族」同人となり、さらに「芸文戦線」で活躍。「調べた」芸術を発表。また社会的・客観的な批評方法としての外在批評を提唱。プロレタリア文学理論の確立に努めた。38年人民戦線事件に連座し転向、その後も幅広く活躍した。

アオノツガザクラ →ツガザクラ

青野山 〔附〕 島根県南西部、津和野町にある標高907mで、角山・安山岩からなり、落差908m。釣鐘状の美しい山谷で、北麓の青野原は本州最西端のスキー場。小野山、枯木山、菊山、青野山の3寄生火山がある。

アオノリ 緑藻類アオサ科アオノリ属の総称。各地の沿岸、内湾、河口などに生ずる。淡水産の種類もある。いずれも体は青状で1層の細胞からできている。多くの種があり、長さは数センチのものが多いが、時に1m以上に達するものもある。食用にする。

アオバリアガタハネカクシ ハネカクシ科の甲虫。体長7mm内外。赤褐色

で、頭は黒く、上翅は青い。水田など雑草の茂った湿地にすみ、よく灯火に飛来する。体液中にペーデリンを含み、人の皮膚に炎症を起こさせるので知られる。成虫で枯草の下などで越冬。分布は日本全土のほか、アメリカを除く世界各地。

青葉城 〔附〕 仙台城の別名。仙台市の南西、八幡川に東面した伊達政宗の居城。本丸は1602年完成、二の丸は忠宗により41年完成。明治初期までに失われ、豊田秀吉から拝領したと伝えられる大手門のみを残したが、1945年戦災で焼失。

アオバズク フクロウ科の鳥。翼長22cm。極東および東南アジアに分布。日本では全国の低地および低山の林に夏鳥として渡来し、冬は南方へ去る。夜間活動し大形の昆虫を捕える。果は樹木の穴や人家のすき間、巣箱に作られる。ホーホーと鳴く。

アオバセリ 日本産セリチョウ中の最大種。開張50mm内外で、暗緑色。後翅の後角はだいたい色に縁取られる。幼虫は茶黒色、各節に黄帯があり、アワブキの葉を食う。年2回発生、蛹で越冬。北海道を除く日本各地、中国からインド、マライに至る地域に分布する。

アオバト ハト科の鳥。翼長18.5cm。全身緑色の大型のハトで、日本、台湾、東南アジアの一部に分布する。日本では全国の低山の林にすみ、特に広葉常緑樹林を好む。冬は温暖な地方に移動。おもに植物質を食べ、果は高い樹枝に作られる。アオーアオーと奇妙な声で鳴く。

青花紙 〔附〕 →藍紙

青龍 →ベロー作「童話集」(1697)中の物語、またその主人公。次々に6人の妻を殺し、7人めの妻の兄に殺される。ジル・ド・レール-Jilles de Retz〔附〕がモデルで、彼は青髯の名で親しまれた貴族、芸術愛好家、軍人。百年戦争で奮戦、28歳で若くはない財産を相続、幼少時代から多数の犯罪行為で処刑された。あるいはヘンリー8世がモデルともいわれる。バルトックのオペラでも扱われる。

アオビユ →イヌビユ

青不動 身体が群青で描かれているので→赤不動、→黄不動に対してこの俗称がある。不動明王図像の一般的形式による現存最古の作例。怪鳥迦楼羅の形の炎を朱・丹・墨で描いた光炎が特徴。輪郭の鉄線描、条扇の幾何学文様により藤原盛期の作と推定される。作者未詳。京都青蓮院蔵。

青本 〔附〕 成双紙の一つ。黒本とともに赤本の成長したものだ。1700年代の延享・寛延ころから安永ころまで流行。萌黄色の表紙。→黒本とはほとんど区別がない。代表作は「風流都鄙世楽花枝」(風流山人花碧)など。

アオミドロ 緑藻類ホシミドロ科の淡水藻。各地の水田、小川、みぞなどに生育する。体は毛状、細胞が1列に並んでいる。細胞内にはらせん形の葉緑体がある。体がちぎれてふえる無性生殖と、二つの細胞間に連絡管ができて内容が接合し細胞間をつくる有性生殖とがある。接合藻類の仲間。

青虫 シロチョウ科の幼虫の総称。モンシロチョウの幼虫をさす場合が多い。全体緑色で微細な短毛がある。植物の葉を食べ、種類によって加害植物は一定している。ほかに緑色で細長い

アカエゾマツ → **エゾマツ**
赤岡^{アカ}(町) 高知県東部、土佐湾に面する香美^{カミ}郡の町。主要市街地は物部

▲川左岸の砂丘上に東西に細長く伸びる。砂丘はサツマイモ栽培に利用され、北側の後背湿地では水稲栽培が行なわれる。1.70平方*。4,204人(1970)。

アカガイ(赤貝) フネガイ科の二枚貝。高さ9センチ、長さ12センチ、幅7.5センチ、殻表の肋は42内外、内面は白色、かみ合せに多くの歯がある。北海道南部から九州、朝鮮半島の内湾の深さ3～4メートルの泥底にすみ、けた網で採取する。産卵期は夏。アカガイの名のとおり、肉は赤いが、これは血液中にヘモグロビンを含むため。味がよく、すし材料。

アカガエル アカガエル科に属するカエルのうち赤みがかった体色をもつものの総称。ニホンアカガエルは体長4～7センチで、本州、四国、九州および中国大陸に分布。水辺に生活し、昆虫、ミミズなどを捕食する。産卵期は12～3月で、1,000個ほどの卵を産む。本種に近いタゴガエルは山地の溪流にすみ、伏流水の石に産卵する。他に日本産のものとしてはエゾアカガエル、ヤマアカガエルなど。

アカガシ →カシ
赤痢菌 主としてムギ類を冒す病徴で、出穂期から乳熟期に降雨が多いと発生が多い。穂の一部が枯れ、もみ殻の合せ目にそって朱色のカビ(分生胞子の集団)が生じ、病穂にはちに黒い粒点(子実殻)が密着する。飼料にすると中毒を起こすことがある。品種の選択、種子の消毒、石灰イオウ合剤などの農薬で予防する。

赤来(町) 島根県東部、飯石郡南西部の町。国道54号線が南の赤来峠を越えて広島県に延び、赤来トンネルを開通して両県連絡の交通要路となる。耕地が少なく、広島への杜氏なども集団出稼が多い。来島ミダムと貯水池がある。119.05平方*。5,018人(1970)。

赤城山 群馬県東部にある広大な二重式成層火山。安山岩からなる。標高1,828メートル。標名が山、妙義山とともに上三毛山と呼ばれる。外輪山の黒松山が最高峰で、地蔵岳、長七郎山の中央火口がある。頂上部にある大沼は火口原湖、小沼は火口湖。キャンプ、スキー、スケートでにぎわう。

あかざね 手や足の表皮の厚い部分に深いひび割れが生じ、内部が赤く見えるもの。冬に多いのは皮膚が乾燥・乾燥の減少により乾燥するためで、ワセリンなどを塗るは予防に役立つ。湿疹などの皮膚病から生じることもある。治療は、消毒して清潔な絆創膏を貼るが、各種軟膏剤を用いる。

赤倉(温泉) 新潟県中頸城郡、妙高高原町に属し、妙高山麓、標高758メートルの原上にある。含ボウ硝重炭酸土類泉。55℃。高原避暑地、スキー場として有名。信越本線妙高高原駅からバス。

アカクラゲ 傘の模様からレンタイクラゲともいう。腔腸動物、ハチクラゲ綱。傘の直径は9～12センチ、半球状で表面に16本の褐色の点がある。本州～台湾に分布。触手には毒をもった刺細胞があり、人を刺す。小魚などを捕えて食べる。

アカゲザル リーザスザルともいい、雪長目オナガザル科。体長60センチ、尾35センチ。インド南部から中国南部、海南島に分布。森林に群生し、果実、昆虫などを食べる。人になれやす(医学実験に用いられる)。Rh式血液型は本種の英

名リーザス rhesus に基づく。

アカゲラ キツキ科の鳥。翼長13センチ。欧亜大陸の中部に広く分布・繁殖し、日本では本州中部以北の山地の森林に一年中見られる。木の幹に穴を掘って巣とし、繁殖期にはくちばしで朽木を速くたたき、大きな音をたてる。キョッキョッキョと鳴く。よく似た種にオキョウアカゲラとアカゲラがあり、前者は翼長15センチ、日本全土に見られるが、後者は翼長9.5センチ、北海道だけにすむ。習性はアカゲラに似る。

アカコッコ ヒタキ科の鳥。翼長12センチ。伊豆七島、まれには屋久島にもすむ。全島の林に一年中見られるが、伊豆大島の林には冬だけすむ。低い枝上に皿形の巣を作り、ミミズ、昆虫および果実を食べる。

アカザ アカザ科の一年草。インドまたは中国大陸の原産。平地の人家付近にはえる。茎は直立し、著しく枝分れて高さ1.5メートルになり、茎の太いものは径3センチに達する。葉は菱状卵形～三角状卵形で、長い柄があって互生し、若いころは芽のまわりの葉が紅紫色を帯び、後に緑色に変わる。9～10月に、枝先に小さな黄緑色の花が円錐花序に密につく。果実は平たい円形。種子は黒色。若葉を食べる。シロザは芽の部分に赤くならない。

赤坂 東京都港区北部、青山とともに旧赤坂区をなしていた地区。山の手台地にあり坂が多く、表通りに商店街、裏通りに高級住宅、高級料亭、飲食店、ホテルなどが多い。赤坂見付は地下鉄、高速道路が通じる交通の要衝。紀州徳川家の屋敷跡に赤坂離宮、東京御所があり、水戸神社、豊川稲荷、防衛庁、東京放送等がある。

赤坂 岐阜県大垣市の一地区。不破郡の旧町で、1967年大垣市に編入。金生山は埋蔵量4億とされる。石灰岩の大産地で、石灰製造、大理石製造が盛ん。

赤坂(町) 岡山県南東部、赤磐郡の町。吉備高原中の砂川流域にあり、中心集落は町田山。かつては赤坂白木綿の産地で、今は酒米として知られる雄町米とモモ、ドウを生産。42.78平方*。5,864人(1970)。

赤坂喧嘩の変 1874年1月14日、石大津達で呉兵衛が宮中より退出後、東京赤坂喧嘩で武士熊高知高島士族9名に襲われ負傷した事件。

赤坂城 元弘の乱に楠木正成が立てこもった。現大阪府河内郡千早赤阪村にあった平城。1331年正成挙兵と同時にその本拠としてしたが、鎌倉幕府の大軍に攻められて陥落。正成はのがれて翌年千早城に拠って抗戦し、上赤坂城を築いたが再び陥落。

赤坂離宮 東京都港区元赤坂、かつての紀州徳川家の屋敷跡にあるベルサイユ宮を模した洋式宮殿。紀州邸は1873～89年仮皇居、のち東京御所となった。現在の離宮は98年片山東熊の設計により東京御所として起工、1909年完成。室内は大理石、裂地が張りて飾られ豪華。大正改修、迎賓館となる。

赤崎(町) 鳥取県中部、東伯郡の町。主集落の赤崎は大山段から流れる勝田川の流域にあり、藩政時代は宿駅、いま県有数の漁港。米子と倉吉間を繋ぐの断移地帯で、酪農、養蚕、二十世紀ナシの栽培を行なう。→船上山 57.27平方*。9,699人(1970)。

アカザラ →アズマニシキガイ

明石(市) 兵庫県南部の市。1919年市制。中心市街は明石海峡に臨み、城下町、山陽道の宿町として発達。戦前は航空機・鉄鋼工業などが発展したが、戦災で被害を受けた。戦後、農機具、工業用衡器の製造が盛ん。また近年、播磨臨海工業地帯の一部として重工業が進出した。大阪、神戸への通勤圏として宅地化も著しい。明石城跡の明石公園、日本標準時子午線(東経135°)の標識、天文科学館がある。淡路島との間をフェリーボートで連絡、山陽本線・新幹線、山陽電鉄が通じる。47.33平方*。206,525人(1970)。

アガシー Louis Agassiz(1807) スイス生まれの米国の博物学者、水河と海洋の研究家。チューリッヒ大学等で医学、博物学などを学び、パリに出てキュビエらの指導を受け、そのころから魚類・化石魚類の研究で著名。1836年ころからアルプス水河を研究、水河地質学の基礎を築く。46年渡米、53年にはハーバード大学の動物・地質学教授。A.E.アガシー(1888)はその子で動物・海洋学者。特に海洋生物の発生学・形態学に貢献した。

アカシア マメ科の常緑高木で、オーストラリアを中心とし熱帯、温帯にわたって約500種ある。葉は偶数羽状複葉をなし、非常に小さい葉をもつが、あるいは普通の葉を欠き、葉柄にあたる部分が左右に平たくなつて仮葉をなしているからである。葉は黄色のものが多いが、まれに白色で、球形の頭状花序または円柱状の穂状花序をなす。花弁は5個だが目立たず、雄しべは数十個あり、花の上に長く出ている。豆果は花の割合に大形で扁平。日本にはフサアカシア、ギンヨウアカシア、モリシマアカシア、サンカクバアカシア、ヤナギバアカシア、ウロコアカシア、ソウジュなどが温室か暖地に植栽される。切花に用いられる。タンニン、アラビゴム等をも有用種も多い。なお→ハリエンジュ(別名ニセアカシア)を俗にアカシアともいう。

赤潮 海水面近くにプランクトン(鞭毛虫類、赤色イオウ細菌、ケイ藻、ヤコウチュウ、コペポダなど)が多数発生して海面が赤褐色に変わる現象。河川の注ぐ内湾(東京湾、三重県沿岸、中海など)で起こりやすく、主に魚介類に大被害がある。苦潮(大阪湾)、青潮(東京湾)、厄水(三陸沖)も同様な現象。

アカシカ 偶蹄目シカ科。肩の高さ1.2メートル、角の長さ1メートル。欧州から中国北部、アムールに分布。食性広範だが、冬は昼間も歩き、草を食べる。交尾期に雄は戦い、数頭の雌を得る。角は春に落ち、すぐ新しい鋭角のびる。成長期の角を中国では鹿茸と称し薬用とするため飼育する。

明石海峡大橋 兵庫県明石市と淡路島北端の間、海峡。大阪湾の西口にあたり幅約4キロ、潮流が強く、最大6メートル前後に達する。古くは四国連絡の要衝であった。別府航路など内海汽船をはじめ船舶の航行が多く、明石一岩屋(淡路町)に船便がある。本州四国連絡の明石海峡大橋が架橋の予定。

明石原人 1931年直良が信夫が明石市西八木で発見した左腰の寛骨を、48年長谷部言人達が不完全な直立歩行をした原人のものと提唱、ニッポン

トポス・アカシエンシスと命名した。原標は第二次大戦で焼失し、長谷部の研究は残された石膏標本について行なわれた。

赤字公債 一般会計の歳入不足を補うための公債。軍備拡張・戦争・不況時に発行されることが多い。財政規模を安易に拡大し→財政インフレを招くため、戦後の日本では財政法で発行を禁止(ただし1965年度に特別立法により発行)。→建設公債

赤字財政 歳入が税など經常収入を超えている財政状況。この超過分を借入金や公債発行によって調達するならば→財政インフレになりやすく、支出の次年度繰延や増税を行なうとデフレ要因となる。→健全財政

明石志賀之助 力士。初代横綱。江戸寛永年間職業相撲の初期に活躍。宇都宮出身と伝えられるが生没不明。〈近世奇談〉によれば仁王仁太夫を倒して朝廷から日下開山印の称号を受けた。

アカシジミ 鱗翅目シジミチョウ科。開張40センチ内外で、だいたい褐色。幼虫はナラ、クモ科の葉を食べ、成虫は年1回、6月ころ発生、卵で越冬する。分布は日本全土(離島を除く)、朝鮮、シベリア東部、中国大陸西部、台湾。

明石縮 略して明石。絹の縮織物の一種。経糸に生糸を、緯糸に明石綿と称する強固な精練糸を用いて平織にしたもの。薄地で軽く、夏の婦人高級着物地とされる。もとは明石で織り出されたが、現在では西陣、小千谷が主産地。

明沢(町) 長野県東筑摩郡の町。主集落は松本盆地北東部、高瀬川や梓川などが合流して犀川となる地点にあり、深川集落として発達、篠井線が通じる。農業が盛んで、本工品、竹細工、干しがきも特産。ニジマス孵化場がある。42.20平方*。10,019人(1970)。

明石元二郎 陸軍大将。福岡県生まれ。幼年学校、士官学校を経て1894年ドイツに留学。日清戦争に近衛師団参謀となり、日露戦争中は欧州で諜報活動に従事。1908年朝鮮駐留参謀長兼憲兵隊長として朝鮮併合に尽力。参謀本部次長、第6師団長を歴任し、18年古賀総督に就任。

アカショウビン カワセミ科の鳥。翼長12.5センチ。日本、中国、東南アジア等に分布。日本では北海道、本州に夏鳥として渡来し、深い森林で繁殖する。果は枯木の穴などに作られる。カエル、魚を食べ、キョロロロと大声で鳴く。

アカショウマ →アスチルベ
赤新聞 語源的には政府要人・官僚・政党政部などの非行を指摘、攻撃した→万朝報の紙が淡紅色だったこと由来するといわれる。歴史的には明治20年代後半に、演習記事を武器に激しい販売競争を演じた東京の商業紙をさした。現在では一般に低俗な暴露記事を売物とする新聞の総称。

赤頭巾 欧州に広く伝わる昔話で、グリの同名の童話によって知られる。祖母や母に化けたオオカミが少女をだまして食うが、少女はオオカミの腹から救い出される。グリのオオカミと七匹の子ヤキも同系統。類似の話は日本にも見られる。
赤城地帯 1946年連合軍総司令

部の指令によって日本の公娼制度は廃止されたが、従来の遊郭地帯と私娼街を特殊飲食店街と呼んで、その女給と任意に行なわれる売春は黙認された。この特徴的な地域を「赤線地帯」といい、これに対し裏口売春を行なう私娼街を「青線地帯」と呼んだ。1958年→売春防止法施行当時の赤線およびこれに準ずる地域は全国1,800ヵ所、業者39,000軒、売春婦120,000人(警察庁調)。

アカソ イラクサ科の多年草。日本、中国大陸の山地に普通にはえる。高さ60〜80センチ、葉は対生、広卵形で縁にはあらい鋸歯があり、先は3裂して尾状になる。茎と葉柄は紅色を帯びることが多い。花は単性で花穂をなす、雄花は下部に、雌花は上部につく。雄しべは4〜5個、その果は球状に集まる。

赤染衛門 江戸中期の女流歌人。生没不明。赤染時貞女(平家盛女とも)。大江匡衡の妻で、藤原道長の室倫子に仕え、その娘の上東門外も出入り。匡房は曾孫にあたる。家集「赤染衛門集」があり、〈栄花物語〉の作者といい、また〈麗花集〉の編者ともいう。〈後拾遺集〉等に約90首入集。

果犬養三 三代犬養毅の次男。橋樑の三千代。

赤出汁 大阪の桜みそをすり、濃い魚のだしで作ったみそ汁のことだが、現在では平口で濃い味をつけた赤みそ仕立ての汁をいい、豆腐やナメコなどの具で名古屋みそや三州みそを用いる。

アカデハ 鱧 鱧(目)タテハウ科。開張67センチ内外。黒色、だいたい赤の斑と白紋がある。裏面は複雑な雲状紋。幼虫はイラクサ科とニレ科の植物の葉を食べ、成虫は年数回発生し成虫で越冬。分布は日本全土、アジア(インド)東、豪州。

アカダニ →ハダニ科のダニの俗称。

果主 大和朝廷の地方官。はじめ小地域の司祭者であり王であったが、国家統一後、県の首長とされた。果は国の下部組織とも、国に先行する行政区画ともいう。地位は世襲されたため、果主は姓の一環ともなった。

赤玉 赤玉石とも。赤色の碧玉。不純な玉髄質の塊状石英に多量の酸化鉄が含まれて血赤色を呈するもの。庭石・飾石・貴石として珍重される。北海道今金、静岡県土肥、富山県福光等でも産するが、佐渡の岩首(両津市)産が最も良質とされる。

黒目除目 春の除目とも。正月11〜13日に行なわれる諸臣任官の公事。

赤子 →マーキュロクロム。

赤塚自傳 〔1896〕 漆芸家。東京生まれ。代々平左衛門を名のる。時給を父に、日本画を狩野久信・寺崎広業に、洋画を白馬会研究所で学ぶ。伝統的技風に創意を加え、格調の高い作品を作る。

赤土 腐植層の薄い火山灰土や、関東ローム層のような風化火山灰層に対する俗称。→赤土土をさす場合もある。

吾妻川 群馬県北西部、吾妻郡の町。東岸は標高500メートルの北西斜面、西岸は吾妻川と支流の温別川流域を占め、全市は山地。吾妻川北岸の中心市街地は江戸時代以来市場町として発達、吾妻川が通じる。製材・木工業が盛んで、コンニャク、麻を特産。222.00平方キロ。17,978人(1970)。

吾妻川 群馬県西部の烏居峠に発し、渋川市で利根川に合流する川。白砂川、四万川、温別川などが流入、中部に中之条盆地が開ける。酸性の川のために生物は生息せず、灌漑利用もできなかったが、1963年河水の中和が開始された。川沿いに吾妻線が通じ、中流に吾妻渓谷がある。

吾妻溪谷 〔1963〕 →吾妻川中流部の溪谷(名)。長野原町川原湯付近の約3.5キロで、石英粗面岩、安山岩、集塊岩などが侵食により奇観を呈する。昇竜岩、臥竜岩は地表に突出したマグマ(天)。紅葉の名所である。

アカツメクサ →クローバ

アカデミー事件 →モロッコ事件

アカデミー (1)アカデミア Academeia。プラトンの創設した学校。アテナ近郊の庭園の名にちなむ。弟子たちに引き継がれて約9世紀続いた。(2)1)から転じて学会、協会(翰林院、学士院、芸術院)の称。フランスの→アカデミー・フランセーズ、英国の→ローヤル・アカデミーなどが著名。

アカデミー賞 米国の映画人によって1927年に創立された「映画芸術および技術アカデミー」が年1回、前年度の作品、スタッフ、俳優等の優秀なものに与える賞。第1回は29年。オスカーとはそのトロフィーの愛称である。戦後、外国映画も賞の対象となった。

アカデミズム 元来プラトンの始祖とするアカデミー学派の称。一般的には、官立大学での学問・芸術がその正統性を維持しようとするため、保守的・超絶的傾向を帯びることの総称。

アカデミー・デ・シアンス Académie des sciences →メルセンヌを中心として集まった学者たちの活動が、1666年コルベールによりアカデミー・ロイヤル・デ・シアンスとして組織され、99年ルイ14世により再編成されて数学・自然科学各分野にわたる総合機関となった。1793年革命により一時廃止、95年国立学会 Institut national の設立とともにその科学関係の最高機関として復活、1816年現在の名に変わり、今はフランス学士院の一機関。幾何学、力学、天文学、地理・航海学、物理学、化学、鉱物学、植物学、解剖・動物学、地域経済学、医学の11部門からなる。機関誌「コン・ランデュ」(1776創刊)。

アカデミー・フランセーズ Académie française フランス翰林院。1635年に時の宰相リシュリューの尽力で創立。その後若干の変化はあったが、現在はフランス学士院の一機関。定員40名。フランス語の純化を課題として、辞典を編集し、また毎年文学賞、德行賞を授与している。

赤と黒 →スタンダー作の小説。1830年刊。本格的近代心理小説の嚆矢。副題「1830年代史」が示す通り、王政復古下の情勢を描写した政治社会小説でもある。赤は軍服、黒は僧服を象徴するといわれる。地方青年ジュリアン・ソレルの立身の夢、偽善、心理的駆迫、恋、断頭台上に落命するまでの短い生涯を描く。第1部はレナール夫人との恋、地方生活、第2部はマテルとの恋、パリ生活。

アカト →トドラム

アカトンボ →アカネトンボ

アカニシ アクキガイ科の巻貝。高さ15センチ、幅12センチ、殻口が広く赤いので

この名がある。北海道南部から九州、朝鮮、中国北部の内湾の浅い砂泥底にすみ、二枚貝類に穴をあけて食うので養殖の害貝。夏産卵し、卵囊はナギナテオオズミという。肉は食用、殻は貝細工にする。

アカネ (西) アカネ科の多年生をつる草。本州〜九州、中国大陸に分布し、山野にはえる。茎は4稜で、稜の上に下向きのとげがはえ、他物に引っ掛かりよじのぼる。葉は長い卵形で4枚輪生する。8〜10月に黄緑色の小花をつけ、花冠は5裂。果実は球形、黒熟。古くは根から赤黄色の染料をとった。

アカネズミ げっ歯目ネズミ科。体長10センチ、尾8.5センチ、体毛は赤褐色で、腹部と手足は白色。日本特産種。穀類、野菜、種実などを食べる。高山にもすむが、低地や低山の疎林に多い。日本では最も優勢な野ネズミだが、農作物・森林の害は著しくない。

アカネトンボ 俗称アカトンボ。トンボ科の中の一亜群の総称。中形の種ばかりで、初夏から発生し、その多くはだいたい色で、晩夏〜秋に老熟し真紅となる。幼虫は池沼や水田で育ち、1年で成虫となる。日本にはアカネなど約20種を産するが、農業のため近年激減した。

赤粘土 適性土深海堆積物のうち、最も広く分布し、最も代表的なもの。チョコレート色。まれに淡褐色または赤色。水を含んでいるときは弾力性がある。0.1ミクロン以下の細粒物からなる。火山灰、宇宙塵、それらの変質物、ケイ質の生物の遺体などを含む。マンガニ質団塊がしばしば多数散在。陸源物質をほとんど含まず、炭酸カルシウムの含量もわずかである。

阿賀野川 福島県西部から新潟県北西部を流れる川。阿賀川とも。長さ210キロ、流域面積7,340平方キロ。会津盆地周辺の水を集め、山都付近で只見川を合わせ、越後山脈に横谷を刻み、数段の段丘をつくって先行性水路を示す。五泉から広い沖積平野を形成する。包蔵水力が大きく、只見川はじめ電源開発が活発。1964〜65年下流部で有機水銀中毒事件が発生した(→水俣病)。

アカノマンマ →イヌタデ

赤旗 (旗) 源家の白旗に対する平家の赤旗は、朝倉景衡の「愚得」(随筆)(1770)によれば、10世紀の経基のころ源家が白旗を用い、次いで平家が五行説の火剋金の思想からして金の白色にまざる火の赤色を採用したという。また赤旗はフランス革命以来革命の象徴とされ、社会主義国が多く→国旗の基調としており、共産党や労働組合の旗ともなっている。

赤旗誌 (新聞) 日本共産党中央機関紙。1928年2月1日「赤旗」として創刊。非合法新聞であったが、35年発行停止。戦後45年復刊。まもなくGHQの命令により停刊、52年再度復刊。日刊紙のほか日曜版も発行。部数は合わせて約350万部(1980)。

赤旗事件 1908年6月、東京神田の錦町で山口義三(孤剣)出獄歓迎会が催された席上、大杉栄ら柏木団(直接行動派)の同志が「無政府共産」と白書した赤旗を振り、デモを行なったのを理由に、大杉、栗田、山内、荒畑寒村らが逮捕された事件。以後社会主義運動の弾圧が強まった。

赤崎焼 奈良市五条町の陶器。五条焼、堯山窯とも。創業は天正説、享和説、明治七説などがあるが不明。江戸中期、柳沢山白(郡山城主)のころ再興され、名工木白誌(柏屋武兵衛)〔説〕が出てから有名になった。→京焼系で、奈良焼の文様が名高い。

アカバナ アカバナ科の多年草。日本全土、東アジアに分布。山野の水辺にはえる。茎は枝分れて高さ50センチ内外、卵形の柄のない葉が対生する。7〜9月に淡紅紫色の4弁花が、茎の上部の葉腋に咲く。花弁の先は浅く裂ける。果実は細長いさく果で、種子に冠毛があり、風に飛ぶ。

赤羽 東京都北区北部の地区。江戸時代には荒川に臨む岩槻街道の宿場町であった。1883年赤羽駅が設けられ、西側台地上に陸軍の施設が、東側低地に工場群ができた。現在軍の施設跡に赤羽団地がある。赤羽駅は東北本線と赤羽線の分岐点で、周辺は繁華な商店街。

赤羽根 (町) 愛知県渥美郡、渥美半島中部の町。太平洋に面し、畑作暖地農業が盛んで、メロン、キュウリ、エンドウ、花卉などを多産。海岸は三河国定公園に属する。73.73平方キロ。6,411人(1970)。

アカハ ヒタキ科の鳥。体のわきが美しいだいたい色で、翼長12センチほど。樺太、千島、北海道および本州中部以北の山地に繁殖し、本州中部以南で冬を越す。森林の樹枝上に枯草、コケ等で皿形の巣を作り、ミズ、昆虫、果実などを食べる。キョロン・キョロン・ツイとさえずる。なお→イモリ、ウグイのこともアカハラという。

アカバ 〔海〕 紅海北部、アラブ連合とサウジアラビアにはさまれた幅19〜27キロ、長さ約160キロの海峡。南端にチラン海峡、北端にヨルダンの海港アカバ Aqaba とイスラエルのエilat 港がある。沿海岸はアラブ側335.5キロ。イスラエル側11キロ。イスラエル名ではエilat 湾という。→中東戦争

アカバカンバ 子囊菌類ソルゲリア科の菌。有性代と無性代があり、前者は黒色粒状の被子子をつくり、後者は生育の盛んな菌糸上に芽胞子をつける。カロテンを含み紅色を帯び、熱に耐え、加熱食品、たとえばパン、飯みそなどにつく。デンプン、タンパク質分解力強く、遺伝研究の材料となる。

アカガサ 和名ムラサキクシラン。アフリカ原産のユリ科の春植え宿根草。切花、花壇、鉢植に適する。6〜7月にユリ型で6弁の花を、散状に5〜10個横向きにつける。花色は紫と白で、八重咲もある。長年植え置く草勢が落ちるので、ときどき株分けをする必要がある。実生では花が咲くまで4〜5年かかる。

アカヒゲ ヒタキ科の鳥。翼長7.5センチ、コマドリに似るが、背面が赤だいたい色で美しく、鳴声もよく似た。鳥として古来著名。南西諸島特産で山間の森林に一年中すむ。地上のくぼみなどに枯葉、コケなどを集めて丸形の巣を作り、昆虫、ミミズをおもに食べる。天然記念物。

アカヒデ 棘皮動物に属する美しい鮮紅色またはだいたい色のヒトデ。腕は5本で9センチ及び、丸くて堅い。本州〜九州、さらにフィリピン、インドネシアにも産する。潮間帯下の